

# F D 活動報告書

関西大学大学院会計研究科  
( 会計専門職大学院 )

第 2 号



関西大学大学院会計研究科

教務・F D 委員会

平成 20 年 3 月

## 目 次

はじめに	1
授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
18 年度秋学期 授業評価アンケート結果概要	7
19 年度春学期授業評価アンケート結果概要	33
18 年度授業評価アンケートフォーム	73
19 年度授業評価アンケートフォーム	79
講演会	85

## はじめに

「学の実化」を標榜する本学において、本研究科は専門職大学院として「学理と実際との調和」を実践し、現実の社会に充分に対応できる公認会計士になるために必要な教育を行っている。本研究科では、近年の会計改革の流れである会計教育水準の国際的統一化、およびそれに呼応するわが国公認会計士制度改革という背景の中で、「テクニシャンよりもプロフェッションを」という社会的要請を受けて、職業的倫理観と高度な判断能力を備えた人材の養成を目的としている。そしてそのための教員の資質向上と教育水準の維持向上の施策のひとつとして、「教務・FD委員会」「専攻分野別FD委員会」を組織し運営している。

そして、授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受け、十分な教育水準を維持していることを保証していく予定である。昨年度（平成18年度）は、本研究科には1年次生のみであったことと平成18年度FD報告書の取りまとめのタイミングにより、平成18年度春学期に開催されたすべての1年次配当科目を原則とした。本年度（平成19年度）は、1年次配当科目・2年次配当科目すべての講義を開講しており、授業評価アンケートをすべての講義で実施している。また、1年次配当科目（春学期）については昨年の授業評価アンケート結果との比較を行っている。今後、過年度のアンケート結果を対比しつつ、同時に系ごとの比較、各系の講義間の比較等を行いつつ、FD活動の成果を確認していくことになる。

さらに、本年度から1年次2年次で共通問題による試験を年度末に行っている。この試験の結果をフィードバックし、FD活動に反映させることとした。それに伴って教員間の意見交換が活発になっている。また、共通の教科書作成を企画し、完成に向けて実施中である。

また、本研究科学生のほとんどが公認会計士試験の受験を希望している。ところが、受講生の知識レベルに差があることや予習・復習等の学習時間について課題が残っている。受講生の知識レベルの差に応じた講義運営を行う必要がある。特に課題や練習問題等の作成にあたり、多段階の練習問題や解説の作成が必要である。また、受講生の予習・復習等の学習時間の少なさについて、その理由を調査する必要がある。そして理由内容に応じた、講義の実施方法や受講前後の学習指導・支援の対応を講じる必要がある。

そして、公認会計士試験の受験と早期合格を希望する学生からは、試験を意識した講義や対策への要求が生じやすい。本研究科は専門職大学院として「テクニシャンよりもプロフェッション」の養成を目指していることもあり、このような要望に必ずしも応えきれものではない。しかし、一方で、専門職「大学院」であることを盾に、本来の学生の要望を見落とす危険を創出しているのも事実であろう。

教員の講義における工夫や心がけが、受講生の理解の向上につながっているのか、あるいはつながるのかを確認する工夫が必要である。講義の実施方法や学習支援体制などの改善だけでなく、教員スタッフが独善的にならないよう、学生への教育に対する真摯な態度や心構えを維持するよう心がける必要がある。

## 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

### (1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、原則として、平成 18 年度秋学期に開催されたすべての授業科目、並びに平成 19 年度春学期に開講されたすべての授業科目を対象としている(次頁参照)。平成 19 年度秋学期に実施した授業評価アンケートについては、次号に分析結果が掲載される予定である。

### (2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

個別演習科目であるアカデミック・ソリューション、プロフェッショナル・ソリューション、論文指導・修士論文を除き、すべての科目が 15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回め(個別演習科目では 29 回め)の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に戻却され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。18 年度と 19 年度のアンケート内容は、18～20 番を除き同一である。

### (3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

### (4) フィードバック方法

専任教員が担当する 19 年度春学期科目のうち 18 年度春学期にも開講していた科目では、18 年度春学期授業評価アンケートとの経年比較を行い、18 年度春学期アンケート結果を踏まえた授業改善が有効であったかを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付して通覧を依頼している。

(5) 対象科目リスト(索引)

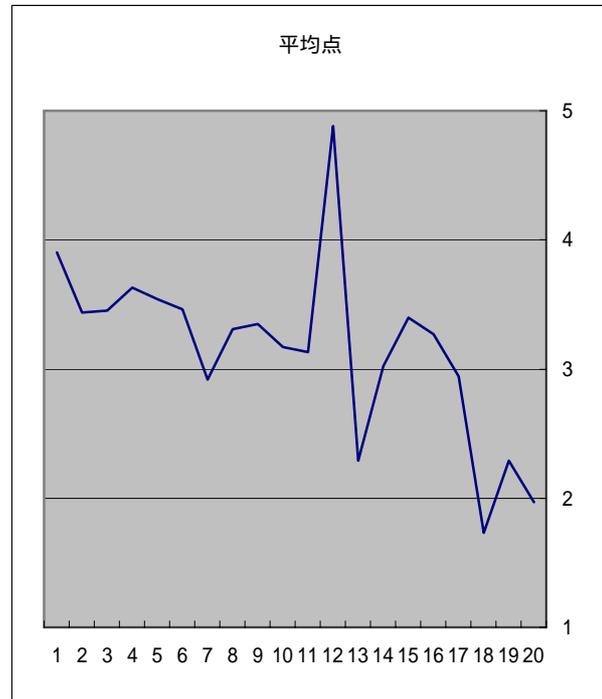
類別	授業科目	配当 年次	開講年度/学期/頁		類別	授業科目	配当 年次	開講年度/学期/頁	
			18年度 秋学期	19年度 春学期				18年度 秋学期	19年度 春学期
基本科目群	理論科目 必修科目	上級簿記	1	33	理論科目 選択科目	英文会計論	2		
		財務会計論	1	34		会計戦略論	2	52	
		上級原価計算論	1	35		無形資産会計論	2	53	
		上級管理会計論	1	36		金融商品会計論	2	54	
		監査制度論	1	37		倒産分析論	2		
		監査基準	1	38		サプライチェーン・マネジメント論	2		
		企業法入門	1	39		プロダクト・マネジメント論	2		
		実践経営管理論	1	40		国際税務戦略論	2		
		会計専門職業倫理	2			ニュー・パブリック・マネジメント論	2		
						非営利会計論	2	55	
発展科目群	理論科目	会計基準論	1	7	国際公会計制度論	2			
		会計制度論	1	8	保証業務論	2	56		
		財務分析	1		システム監査論	2	57		
		会計情報システム	1	9	内部監査論	2			
		上級税務会計論	1	41	リスク・マネジメント監査論	2			
		公会計理論	1	42	不正摘発監査論	2			
		監査実施論	1		法人税法	2			
		監査報告論	1	10	行政法	2			
		商法	1	43	起業論	2			
		会社法	1	11	組織再編論	2			
	コーポレート・ガバナンス論	1	44	国際経営論	2				
	インベストメント論	1	45	リスク分析論	2				
	コーポレート・ファイナンス論	1	12	中小企業金融論	1・2				
	ミクロ経済学	1	46	公開戦略論	2	58			
	統計学	1		企業再生論	2				
	国際会計基準論	2		年金財政論	2				
	国際会計制度論	2	47	国際財務戦略論	2				
	戦略管理会計論	2		企業経済学	2	59			
	企業価値計算論	2	48	公共経済学	2				
	上級税務戦略論	2		情報処理論	2				
自治体会計論	2		X B R L 論	2					
政府会計論	2	49	特殊講義(各テーマ)	1・2					
公監査論	2		国際会計事例研究	2					
国際監査制度論	2		国際管理会計事例研究	2					
証券取引法	2		国際税務会計事例研究	2					
租税法	2		国際公会計事例研究	2					
民法	2		国際監査事例研究	2					
インベスター・リレーションズ論	2		リサーチ・メソドロジー	2					
資本市場論	2	50	国際コミュニケーション論	2					
実践科目	選択必修科目	マクロ経済学	2		実践科目	財務会計系		23	60
		会計事例研究	1			管理会計系		24	61
		管理会計事例研究	1			税務会計系			62
		監査事例研究	1	13		公会計系			63
		基本会計プログラム演習	1	14		監査系		25	64
		基本監査プログラム演習	1	15		法律系		26	65
		税務会計事例研究	2			経営系			66
		公会計・公監査事例研究	2			ファイナンス系		27	67
		判例演習	2	51		経済・統計系		28	68
		実践会計プログラム演習	2			I T ・ ビジネススキル系		29	69
実践監査プログラム演習	2		個別演習科目(アカデミック・ソリューション)		30				
アカデミック・ソリューション	1	16	系別平均			70			
プロフェッショナル・ソリューション	2								
論文指導・修士論文	2								

## **. 18 年度秋学期 授業評価アンケート結果概要**

科目： 会計基準論  
配当年次：1年次  
受講者数：60

開講時限：秋学期  
回答者数：48

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.90	4	5	1
2	3.44	4	5	2
3	3.45	4	5	1
4	3.63	4	5	1
5	3.54	4	5	1
6	3.46	4	5	1
7	2.92	3	5	1
8	3.31	3	5	1
9	3.35	3	5	1
10	3.17	3	5	1
11	3.13	4	5	1
12	4.88	5	5	3
13	2.29	1・2	4	1
14	3.02	3	5	1
15	3.40	4	5	1
16	3.27	4	5	1
17	2.94	3・4	5	1
18	1.73	1	5	1
19	2.29	1・3	4	1
20	1.97	2	5	1



### 受講生の傾向

出席状況は良好であったが、授業時間帯が昼食直後の3限であったため、うたた寝状態の院生がかなり見受けられた。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

復習に便宜を図るために、レジユメを詳細にした。

### 今後の対応

集中力が持続する午前中の授業に切り替える。

科目： 会計制度論

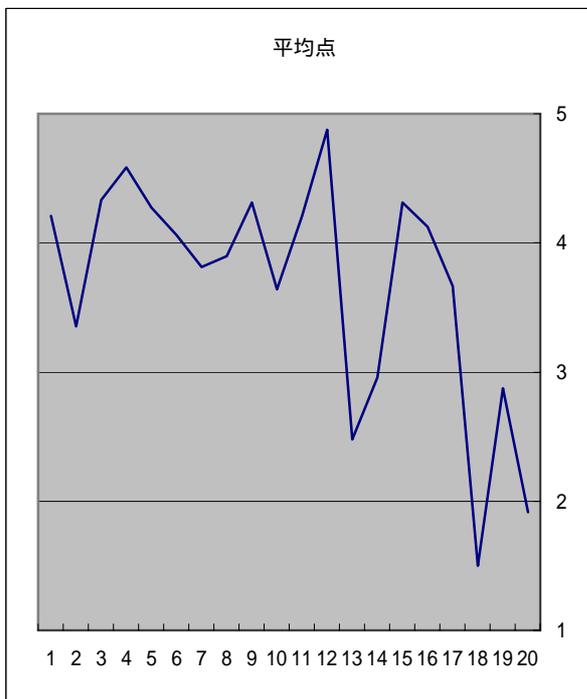
配当年次：1年次

受講者数：58

開講時限：秋学期

回答者数：48

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	4	5	3
2	3.35	3	5	3
3	4.33	4	5	3
4	4.58	5	5	3
5	4.27	5	5	2
6	4.06	4	5	3
7	3.81	3・4	5	1
8	3.90	4	5	2
9	4.31	4・5	5	3
10	3.64	3	5	1
11	4.21	4	5	2
12	4.88	5	5	3
13	2.48	2	4	1
14	2.96	3	5	1
15	4.31	5	5	1
16	4.13	4	5	1
17	3.67	4	5	1
18	1.50	1	5	1
19	2.88	4	5	1
20	1.91	2	4	1



### 受講生の傾向

平均との比較でみると、教員評価に係る項目（質問1から11と15から17）に関して会計制度論は相対的に高い評価を得ている。ただし、項目2（授業の進度）については低い評価を受けている。その理由が講義内容が詰め込みすぎなのか、話し方等に問題があるかなど検討すべき余地がある。

それ以外の項目は相対的に高い評価を受けているものの、絶対的に満足できる水準と言えるかどうかは考えてみる必要がある。

学生評価に関連して、出席率は高く、予習・復習に時間をかけたことが分かる。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

学生は往々にして与えられるのを待つ傾向にあり、自らが利用する参考書についても鵜呑みにする傾向がある。こうした傾向を反省してもらい、自ら考える姿勢を身につけてもらうために会計制度上の重要な文献の原点に直接あたり、どういう問題があるかを自ら見出す方法を説明し、それを実践させるようにした。

六法を見たことがない法曹がプロとなりえないと同様に、会計基準等を読めない会計専門職を根絶したいという思いがその工夫の背景にある。

### 今後の対応

この科目の担当者は他の科目の評価においてもやや進度が速すぎると指摘される傾向にあるので、これらを反省し、進度を遅くして（つまり繰り返しの説明などを多くして）理解力を高めるようにこころがける。

科目： 会計情報システム

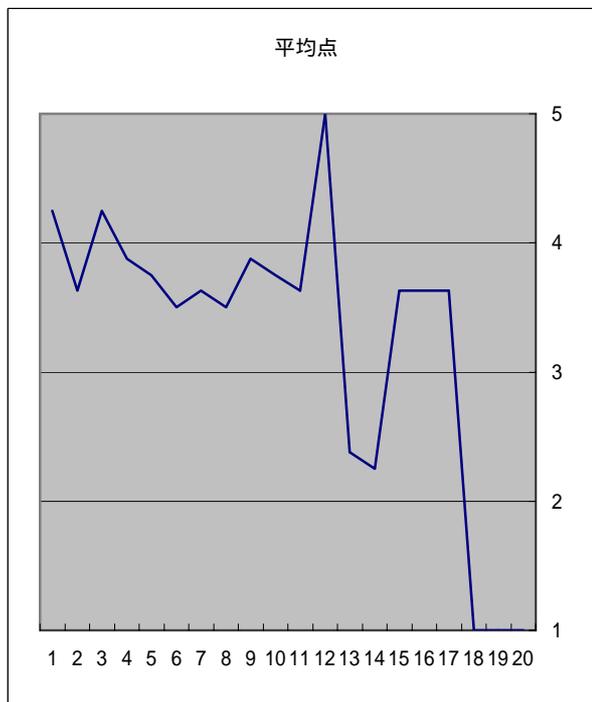
配当年次：1年次

開講時限：秋学期

受講者数：14

回答者数：8

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4	5	3
2	3.63	3	5	3
3	4.25	4	5	3
4	3.88	4	4	3
5	3.75	4	4	3
6	3.50	4・3	5	2
7	3.63	4	4	3
8	3.50	4・3	4・3	4・3
9	3.88	4	5	3
10	3.75	4	4	3
11	3.63	4	4	3
12	5.00	5	5	5
13	2.38	1	5	1
14	2.25	1	5	1
15	3.63	4	4	3
16	3.63	4	4	3
17	3.63	4	4	3
18	1.00	1	1	1
19	1.00	1	1	1
20	1.00	1	1	1



#### 受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で非常に熱心だった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている学生が多く、私語はほとんどない状態だった。

小テストでは、完成に至らないまでも、難しいプログラミングを何とか工夫して完成させようという意欲が感じられた。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

電子データを配布するのではなく、学生自身にそれを入力させることでプログラミングの習熟度を高める工夫をした。

プログラムの内容を逐条解説することで、コンピュータの処理特性とデータ・フローを理解できるように心がけた。

日常業務の支援という現実的な観点から、会計情報システムの全体像とそのサブシステムの在り方を考察する講義展開を行った。

#### 今後の対応

プログラミングの習熟度をさらに高めることができる工夫を凝らしていく。

コンピュータの得手不得手により、学生一人ひとりの理解度に差があるので、それに応じた講義展開を考える。

科目： 監査報告論

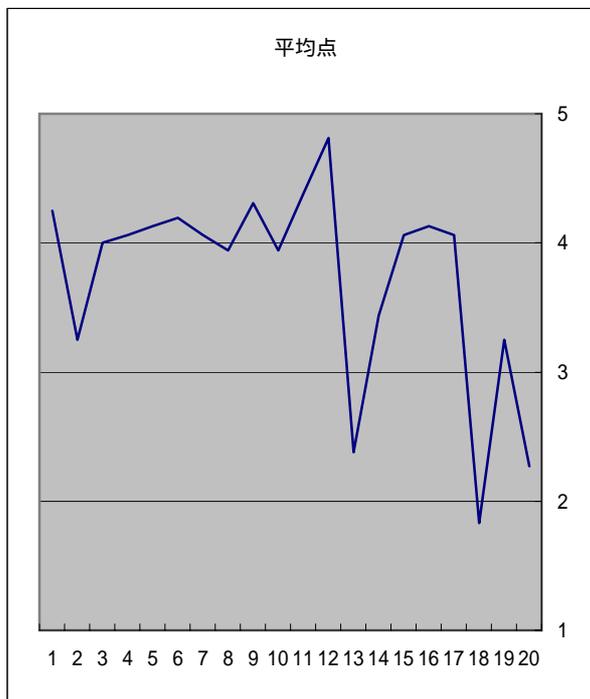
配当年次：1年次

受講者数：26

開講時限：秋学期

回答者数：16

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.5	5	2
2	3.25	3	4	2
3	4.00	4	5	2
4	4.06	4	5	2
5	4.13	4	5	3
6	4.19	4	5	3
7	4.06	4	5	3
8	3.94	4	5	3
9	4.31	4	5	3
10	3.94	4	5	3
11	4.38	4	5	4
12	4.81	5	5	4
13	2.38	3	4	1
14	3.44	3.5	5	1
15	4.06	4	5	3
16	4.13	4	5	3
17	4.06	4	5	3
18	1.83	1	4	1
19	3.25	3	4	3
20	2.27	2	4	1



### 受講生の傾向

受講生の出席状況は、退学した学生2名を除くと、1回の講義で80%の出席率となったものを除き、88%以上を確保しており、受講生の出席率はかなり高いと言える。しかし、予習時間が1時間弱(項目13)、復習時間が1時間強(項目14)となっており、参加意欲が高い割に学習時間が少ないと評価できる。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

毎回、パワーポイントによるスライドを用意・配布するとともに、必要に応じて各種の基準・実務指針・意見書等をコピーした上で配布した。

スライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

授業が終了するたびに前回の理解度を確認するための小テストを授業時間の最初に15～20分程度で実施し、添削して返却した。また成績優秀者の答案を氏名と学生番号を伏した上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。この小テストを毎回実施したために、予習時間に比して、復習時間が相対的に多くなったと推測できる。

さらに情報収集能力の向上を意図し、図書館Onlineデータベースを利用するように仕向けるために、未だ開示が強制されていない報告書の収集と提出を義務づけた。

### 今後の対応

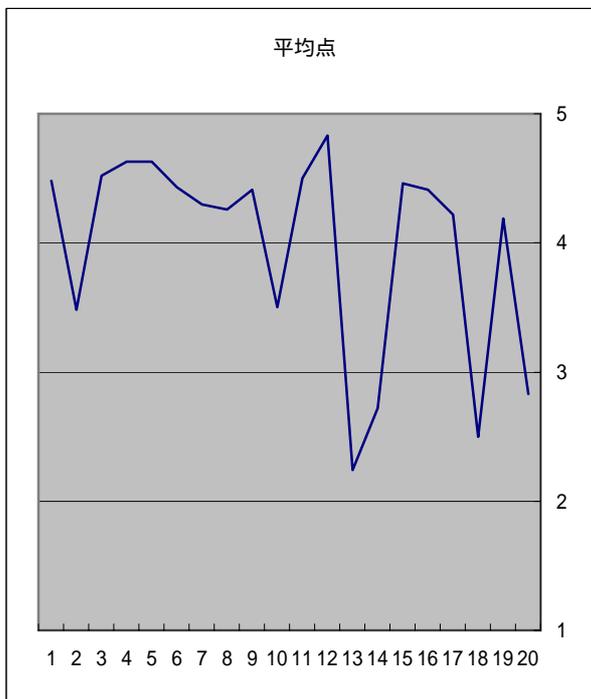
受講生の側での予習の時間を相対的に高めるため、予習課題を大学のインフォメーション等で指示する必要があるかもしれない。

答案練習会との連動を計る必要がある。

科目： 会社法  
 配当年次：1年次  
 受講者数：53

開講時限：秋学期  
 回答者数：46

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.48	5	5	2
2	3.48	3	5	2
3	4.52	5	5	3
4	4.63	5	5	4
5	4.63	5	5	4
6	4.43	4	5	3
7	4.30	4	5	3
8	4.26	4	5	3
9	4.41	4	5	3
10	3.50	3	5	1
11	4.50	5	5	3
12	4.83	5	5	3
13	2.24	2	5	1
14	2.72	3	5	1
15	4.46	5	5	2
16	4.41	5	5	3
17	4.22	5	5	2
18	2.50	1	5	1
19	4.19	4.5	5	1
20	2.83	2	5	1



#### 受講生の傾向

前期で『企業法入門』の授業を行っているので、法律科目に対する抵抗感はなくなっているようである。

会社法の全体の範囲を結び付けて考えるのは困難なようである。  
 解釈が分かれるところでは、すぐに結論を求める傾向があった。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

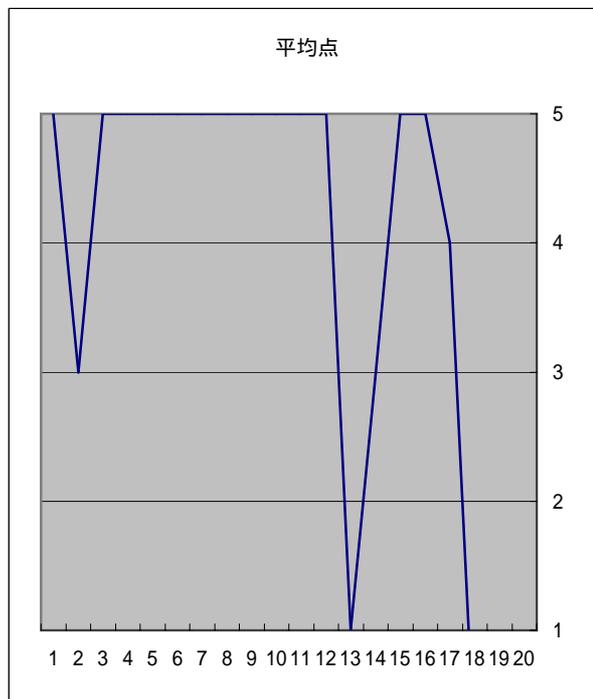
「企業法入門」という授業と連動させるため、企業法入門の知識を再確認しながら授業を行った。基本的な学習を中心にして、判例等の検討については、2年次の「判例演習」に委ねた。理解度を確認するために、章ごとの学習で小テストを行った。

#### 今後の対応

1回ごとのレジュメを作成して配布していたが、次回の学習範囲等が明確にわかるように全回数または数回分のレジュメを作成し、配布するようになりたい。  
 広い範囲を効率よく授業する工夫をしなければならない。

科目： コーポレートファイナンス  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：8 回答者数：1

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5	5	5
2	3.00	3	3	3
3	5.00	5	5	5
4	5.00	5	5	5
5	5.00	5	5	5
6	5.00	5	5	5
7	5.00	5	5	5
8	5.00	5	5	5
9	5.00	5	5	5
10	5.00	5	5	5
11	5.00	5	5	5
12	5.00	5	5	5
13	1.00	1	1	1
14	3.00	3	3	3
15	5.00	5	5	5
16	5.00	5	5	5
17	4.00	4	4	4
18	-	-	-	-
19	-	-	-	-
20	-	-	-	-



#### 受講生の傾向

- 1) 全体に出席率も良く、課題についてもほぼ提出されていた。
- 2) 講義中にも質問が比較的良好に出されていた。
- 3) 理論が中心となったが、基本的な枠組みについては理解されていたと思われる。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 理論、数式、概念図、数値例を合わせて理解できるように工夫した。
- 2) 特に、数式の展開においては、基礎的な考えが理解できるように説明した。
- 3) 理論と合わせて現実の企業の動向も紹介することで、興味を持たせるようにした。
- 4) レジメは文章とし、後で確認を行えるようにした。

#### 今後の対応

- 1) 数値例をもっと多用することで、理解力を高める。
- 2) 企業経営自体、金融商品の基礎知識に乏しい受講生にもより配慮をする。
- 3) 一方的な講義ではなく、講義の中により質疑の時間を取り入れる。

科目： 監査事例研究

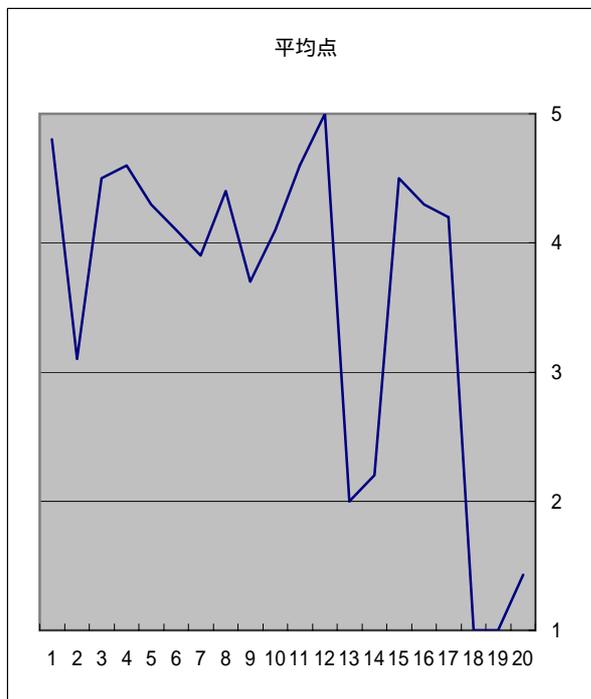
配当年次：1年次

開講時限：秋学期

受講者数：28

回答者数：10

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	5	5	4
2	3.10	3	4	3
3	4.50	5	5	3
4	4.60	5	5	4
5	4.30	4	5	3
6	4.10	4	5	3
7	3.90	4	5	3
8	4.40	4	5	4
9	3.70	3	5	3
10	4.10	5	5	3
11	4.60	5	5	4
12	5.00	5	5	5
13	2.00	2	3	1
14	2.20	2	5	1
15	4.50	4.5	5	4
16	4.30	4	5	4
17	4.20	4	5	3
18	1.00	1	1	1
19	1.00	1	1	1
20	1.43	1	2	1



#### 受講生の傾向

積極的に発言する学生と発言しない学生の差が顕著に現れた。

発表は回を重ねるにつれ上達し、ディベートはテーマを上手く設定すれば活発に意見が出る。

レポートは皆真剣に取り組みがなされ、想像以上に良いレポートが多かった。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

楽しい雰囲気での授業にすること。

グループ発表とすることにより全員が参加できるようにした。

教室内を回って理解できていない学生にはヒントを与えるなど、学生の理解度を確認しながら授業をすすめた。

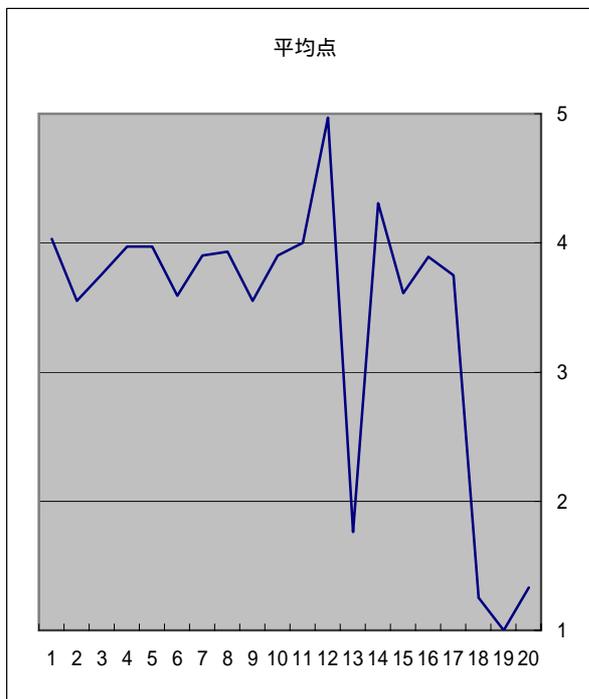
新聞に掲載された最近の事例や過去に大きな影響を与えた事例を取り上げる。

#### 今後の対応

知識の蓄積だけでなく、問題意識が深まるような授業にしたい。

科目： 基本会計プログラム演習  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：22 回答者数：29

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.03	4	5	2
2	3.55	3	5	3
3	3.76	4	5	2
4	3.97	4	5	2
5	3.97	4	5	2
6	3.59	3	5	1
7	3.90	4	5	1
8	3.93	4	5	2
9	3.55	4	5	1
10	3.90	4	5	3
11	4.00	4	5	2
12	4.97	5	5	4
13	1.76	1	5	1
14	4.31	5	5	1
15	3.61	3・4	5	2
16	3.89	4	5	2
17	3.75	4	5	1
18	1.25	1	3	1
19	1.00	1	1	1
20	1.33	1	3	1



### 受講生の傾向

コンピュータ(プログラム)に関する知識が全くない学生がほとんどであった。  
 しかし、熱心に受講することで、新たな知識を得ようとする学生がそのほとんどであった。  
 課題の提出率が非常に高かった。  
 課題の要求水準への達成度が高い学生が多かった。  
 公認会計士試験や公認会計士業務への直接的関係を要求する学生もいた。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

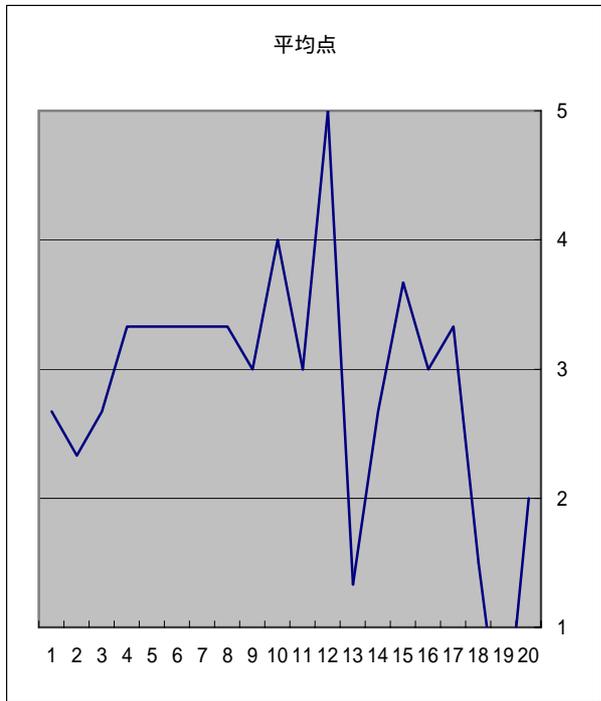
コンピュータ知識、会計ソフトに関する知識がない学生がほとんどであることや本講義に適切な教科書類が少ないことを考慮し、予習よりも復習に重点を置き、復習課題で習熟度が上がるよう努めた。  
 学生の実習中は、机間巡回を行い、習熟度や理解度を認識するように努めた。

### 今後の対応

予習しやすいような教材を用意する必要がある。  
 公認会計士試験と直接にはつながらないことや  
 公認会計士業務と本講義の内容との関係を伝え、意義を理解させる努力を講じる。

科目： 基本監査プログラム演習  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：19 回答者数：3

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	2.67	4・3・1	4	1
2	2.33	3	3	1
3	2.67	4・3・1	4	1
4	3.33	5・4・1	5	1
5	3.33	5・4・1	5	1
6	3.33	5・4・1	5	1
7	3.33	4	4	2
8	3.33	5・4・1	5	1
9	3.00	4	4	1
10	4.00	4	4	4
11	3.00	4	4	1
12	5.00	5	5	5
13	1.33	1	2	1
14	2.67	4・3・1	4	1
15	3.67	5・4・2	5	2
16	3.00	4	4	1
17	3.33	4	4	2
18	1.50	2・1	2	1
19	無回答	無回答	無回答	無回答
20	2.00	2	2	2



**受講生の傾向**

退学した学生を除き出席率はほぼ100%であった。  
 授業時間の切迫差からアンケート調査票の回収を授業時間内に行なわなかったため、回収率が低く、有意な結果とは言えない。

**講義で工夫したこと・留意したこと**

毎回、パワーポイントによるスライドと、必要に応じて基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。前半の講義により、監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。

また前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。

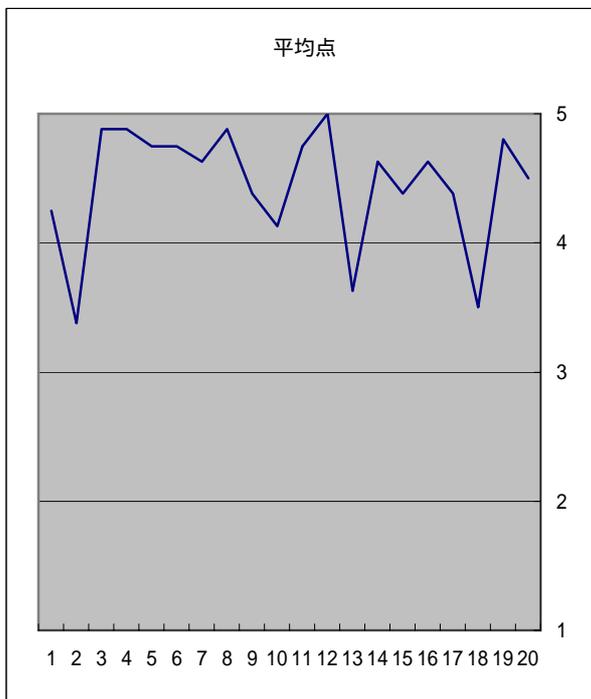
前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

**今後の対応**

アンケート調査票の回収を授業時間内で行なえるような時間配分が必要である。  
 授業時間内での質疑応答に対して、積極的な受講生とそうでないものがあり、消極的な学生に対して発言機会を与える方法を考えなければならない。

科目： アカデミックソリューション(坂口クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:8 回答者数:8

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	5	5	3
2	3.38	3	5	3
3	4.88	5	5	4
4	4.88	5	5	4
5	4.75	5	5	4
6	4.75	5	5	4
7	4.63	5	5	3
8	4.88	5	5	4
9	4.38	5	5	3
10	4.13	5	5	3
11	4.75	5	5	4
12	5.00	5	5	5
13	3.63	3	5	2
14	4.63	5	5	3
15	4.38	5	5	3
16	4.63	5	5	3
17	4.38	5	5	3
18	3.50	5・3	5	1
19	4.80	5	5	4
20	4.50	5	5	3



#### 受講生の傾向

比較的熱心である。  
 ただし、基本的知識について大きな差があるため、運営しにくい面もある。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

テキストの輪読と発表だけでなく、計算問題の演習などを実施し、計算科目に関する基礎知識を養成した。

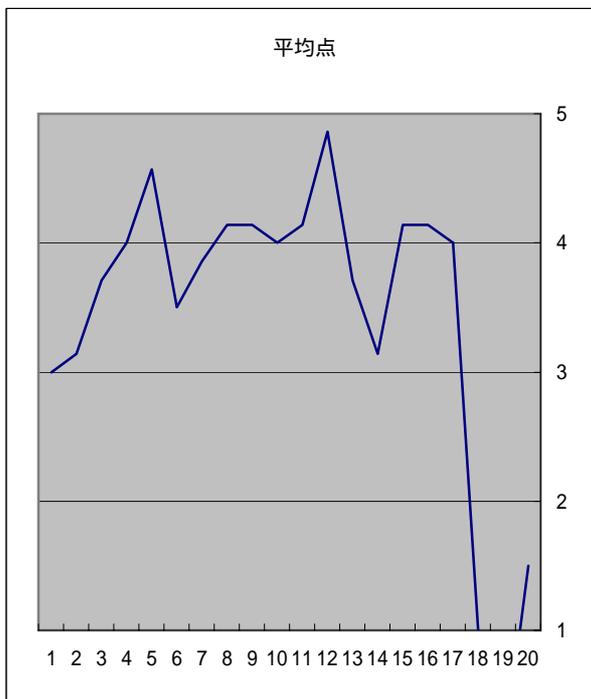
ここにおいても基本的な知識の差があるため、個人別に目標などを設定して対応するようにした。

#### 今後の対応

理論的な側面が弱いため、これを補強するための対策が必要であるとする。  
 また、計算の面でも苦手意識を克服できない学生がいるので、全体との関連を含めて改善する必要がある。

科目： アカデミックソリューション(富田クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:8 回答者数:7

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.00	3	4	2
2	3.14	3	4	3
3	3.71	4	4	3
4	4.00	4	5	3
5	4.57	5	5	4
6	3.50	4・3	5	2
7	3.86	4	5	3
8	4.14	4	5	4
9	4.14	4	5	4
10	4.00	4	5	3
11	4.14	4	5	4
12	4.86	5	5	4
13	3.71	4	5	2
14	3.14	3	5	2
15	4.14	4	5	4
16	4.14	4	5	4
17	4.00	4	4	4
18	1.00	1	1	1
19	無回答	無回答	無回答	無回答
20	1.50	2・1	2	1



### 受講生の傾向

全般的に熱心な学生がほとんどであるが、  
 積極的な学生と消極的な学生が混在している。  
 また、表層的な理解に留まる学生と趣旨・背景まで理解しようとする学生が混在している。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

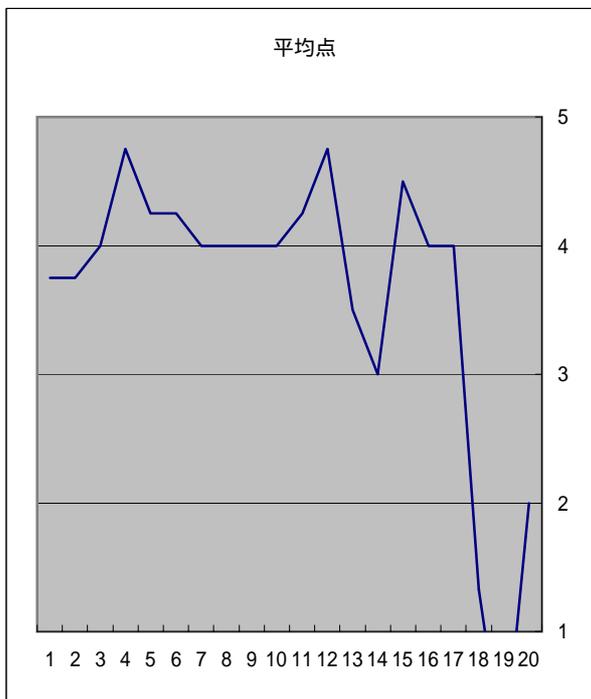
学生の水準に合わせ、前半は基礎的知識、後半はトピックによるケーススタディとした。  
 ディスカッションや思考訓練に努め、文章にまとめさせる訓練を行った。

### 今後の対応

学生の水準と授業計画で予定した水準とにギャップがあり、適切な授業計画を構築する。  
 プレゼンテーションやディスカッションのための教材作成につとめる。

科目： アカデミックソリューション(柴クラス)  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：9 回答者数：4

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.75	3	5	3
2	3.75	3	5	3
3	4.00	4	4	4
4	4.75	5	5	4
5	4.25	4	5	4
6	4.25	4	5	4
7	4.00	4	5	3
8	4.00	4	4	4
9	4.00	4	4	4
10	4.00	4	5	3
11	4.25	4	5	4
12	4.75	5	5	4
13	3.50	4・3	4	3
14	3.00	3	4	2
15	4.50	5・4	5	4
16	4.00	4	5	3
17	4.00	4	4	4
18	1.33	1	2	1
19	無回答	無回答	無回答	無回答
20	2.00	2	2	2



### 受講生の傾向

教員評価に係る項目(質問1から11と15から17)に関して比較的高い評価を得ているものの、全演習の平均との比較でみると、項目15を除き相対的に低い評価を得ていることが分かる。

担当者が自己が担当する他の科目との比較が可能である一方で、他の演習との比較が困難であることから、受講生の傾向を端的に表現できないが、おそらく他の演習は講義時間や補講も含めてよりきめ細やかな指導をしていたのであろうと思われる。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

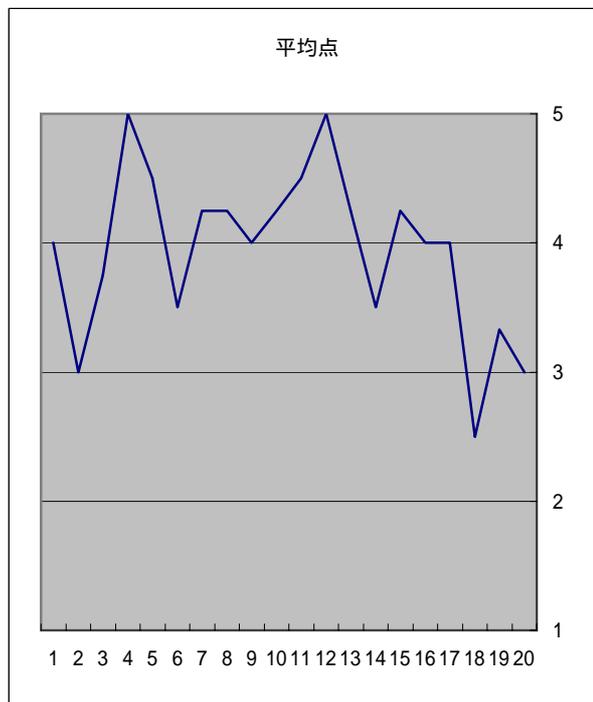
この講義では、考え抜くということと、それを討論に結びつけるということを重視し、考えることや討論のこつなどを実際に示して見せた。しかし、どうもその工夫は効果を出していないようである。

### 今後の対応

少人数の演習であるがゆえに、もっと個性を重視して、それぞれに合った動機づけをしていく必要があると考えるため、各人の得意なことから動機づけを図りたいと思う。

科目： アカデミックソリューション(松尾クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:6 回答者数:4

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4	4	4
2	3.00	3	3	3
3	3.75	4	4	3
4	5.00	5	5	5
5	4.50	5・4	5	4
6	3.50	4・3	4	3
7	4.25	5	5	3
8	4.25	4	5	4
9	4.00	4	5	3
10	4.25	4	5	4
11	4.50	5・4	5	4
12	5.00	5	5	5
13	4.25	5	5	2
14	3.50	5・4・3・2	5	2
15	4.25	4	5	4
16	4.00	4	4	4
17	4.00	4	5	3
18	2.50	3	3	1
19	3.33	3	4	3
20	3.00	5・3・1	5	1



### 受講生の傾向

テーマ別グループ研究報告、全員討論形式により進行したが、議論へ自発的に参加する院生は限られていた。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

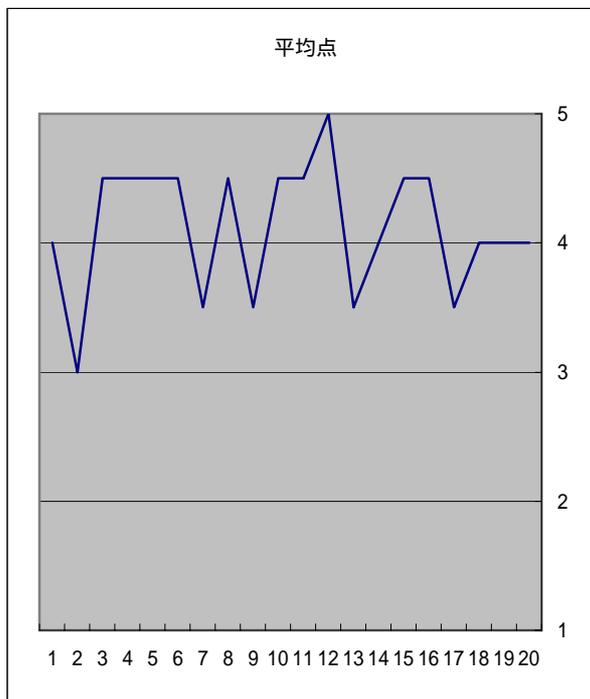
プレゼンテーションのレベル向上のため、資料収集・分析の充実に努めさせた。

### 今後の対応

相互連繫を深めるためにグループ研究方式を取り入れたが、その実が不十分であったために、次年度は個人研究・全員討議方式に切り替える。

科目： アカデミックソリューション(松本クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:10 回答者数:2

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4	4	4
2	3.00	3	3	3
3	4.50	5.4	5	4
4	4.50	5.4	5	4
5	4.50	5.4	5	4
6	4.50	5.4	5	4
7	3.50	4.3	4	3
8	4.50	5.4	5	4
9	3.50	4.3	4	3
10	4.50	5.4	5	4
11	4.50	5.4	5	4
12	5.00	5	5	5
13	3.50	5.2	5	2
14	4.00	5.3	5	4
15	4.50	5.4	5	4
16	4.50	5.4	5	4
17	3.50	4.3	4	3
18	4.00	4	4	4
19	4.00	4	4	4
20	4.00	4	4	4



### 受講生の傾向

平成18年度

全員がまじめにほぼ100%出席した。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

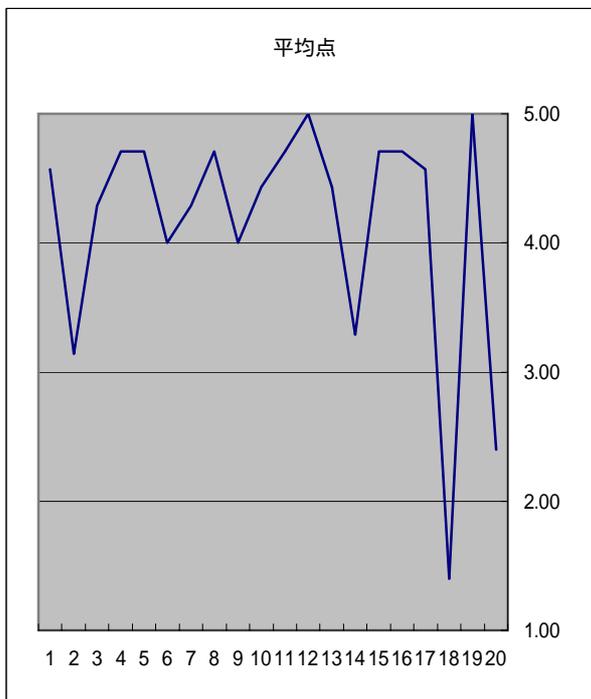
会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課した。

### 今後の対応

受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、どのような補修を実施するかを考えなければならない。

科目： アカデミックソリューション(三島クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:7 回答者数:7

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	5	5	4
2	3.14	3	4	3
3	4.29	4	5	4
4	4.71	5	5	4
5	4.71	5	5	4
6	4.00	4	5	3
7	4.29	5・4	5	3
8	4.71	5	5	4
9	4.00	4	5	3
10	4.43	5	5	3
11	4.71	5	5	4
12	5.00	5	5	5
13	4.43	5	5	3
14	3.29	4・3・2	5	2
15	4.71	5	5	4
16	4.71	5	5	4
17	4.57	5	5	4
18	1.40	1	3	1
19	5.00	5	5	5
20	2.40	2	5	1



#### 受講生の傾向

最初はゼミ内において、かなり力に差があるようであった。  
 ゼミが終わるころには、会社法に関しては一通りの力がついていた。  
 議論は比較的活発に行われたが、当てられないこと発言をしないこともあった。  
 自分が報告の時には熱心に予習をするが、そうでないときにはあまり予習をしない傾向があった。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

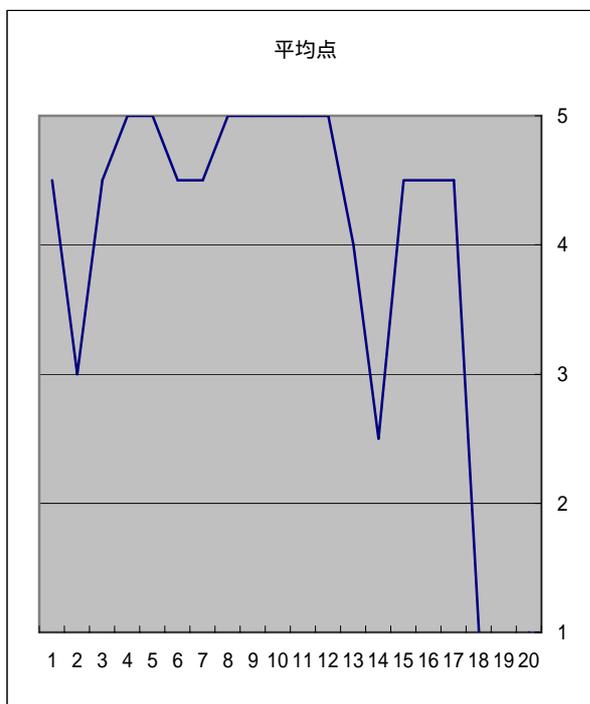
初回で、学生の現時点での実力がわかるように、簡単な問題を扱った。  
 前期は、会社法の全範囲を網羅するような内容を事例形式を使うことで学習を行った。  
 後期は、学生が希望するテーマにしたがって報告とディベートを行った。

#### 今後の対応

ゼミ内で学力の差がある場合にそれに応じて対応した学習ができるようにしたい。  
 教員主導ではなく学生主導のゼミを作りたい。

科目： アカデミックソリューション(宮本クラス)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:2 回答者数:2

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.4	5	4
2	3.00	3	3	3
3	4.50	5.4	5	4
4	5.00	5	5	5
5	5.00	5	5	5
6	4.50	5.4	5	4
7	4.50	5.4	5	4
8	5.00	5	5	5
9	5.00	5	5	5
10	5.00	5.3	5	3
11	5.00	5	5	5
12	5.00	5	5	5
13	4.00	5.4	5	3
14	2.50	3.2	3	2
15	4.50	5.4	5	4
16	4.50	5.4	5	4
17	4.50	5.4	5	4
18	1.00	1	1	1
19	無回答	無回答	無回答	無回答
20	1.00	1	1	1



### 受講生の傾向

正規の受講生の数を上回る聴講希望生がいたが、全員非常に真面目で熱心であった。ホワイトボード用いて説明すると熱心にノートをとり、また質問も的を得ていた。順番に発表をさせたが、全員事前にきちんとした発表用のレジユメを作成し、一生懸命発表を行った。非常に気持ちのいい授業であった。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

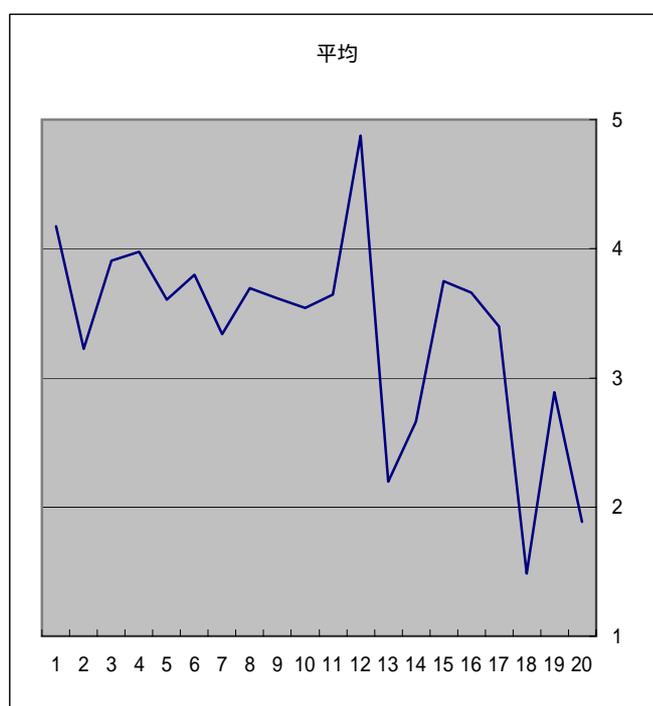
受講生の中には、経済学では必須である数学を勉強していない者がいたので、できる限り図を用いて説明し、さらにそれを簡単な数式を用いて再度説明をした。その結果、数学が苦手な学生も理解できたようであった。

### 今後の対応

経済学では必須の基礎的な解析学の学習を、事前にできる体制をつくるように次年度以後は工夫する。

科目： 財務会計系(会計基準論、会計制度論、会計事例研究)  
 配当年次:1年次 開講時限:秋学期  
 受講者数:168 回答者数:113

質問	平均
1	4.17
2	3.22
3	3.91
4	3.97
5	3.60
6	3.80
7	3.34
8	3.70
9	3.61
10	3.54
11	3.64
12	4.88
13	2.20
14	2.66
15	3.75
16	3.66
17	3.40
18	1.49
19	2.89
20	1.88



### 受講生の傾向

平均との比較でみると、教員評価に係る項目(質問1から11と15から17)に関して会計基準論は全項目で低い評価を受け、会計制度論と会計事例研究は相対的に高い評価を受けている。ただ、会計制度論は項目2(授業の進度)につき早すぎるとの評価を受け、会計事例研究は項目4(教師の熱意)、項目5(教師の説明)、項目7(教材提示)、項目9(宿題等)で相対的に低い評価を受けていることに留意する必要がある。

学生評価に関連して、いずれの科目とも出席率は高いが、会計基準論と会計制度論は予習と復習に時間をかけたことが分かる。

### 講義で工夫したこと・留意したこと

会計基準論では、復習に便宜を図るために、レジュメを詳細にした。

会計制度論では、学生に原点にあたることを強く要求し、参考書等の記述との相違を体感できるように心がけた。

結果は、「受講生の傾向」に示したとおりであり、会計基準論において評価が得られなかったことに対し、その原因を考える必要がある。

### 今後の対応

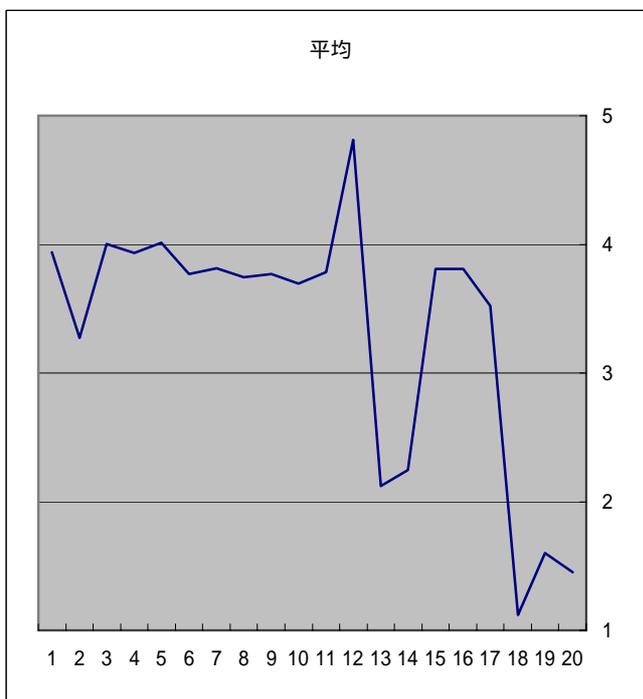
会計基準論では、3時限目という時限配置から集中力を欠くことを問題視しており、次年度には、集中力が持続する午前中の授業に切り替えるとの対応が示されている。

会計制度論は、授業の進度が速すぎるとの評価に対して、速度を落として理解力を高めるようにするとの対応が示されている。

会計事例研究については非常勤が担当しており、対応策についての見解を求めていないためここでは示せないが、執行部から授業評価のポイントを説明する。

科目： 管理会計系(財務分析、会計情報システム、管理会計事例研究)  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：106 回答者数：42

質問	平均
1	3.94
2	3.27
3	4.00
4	3.93
5	4.01
6	3.77
7	3.81
8	3.74
9	3.77
10	3.69
11	3.78
12	4.81
13	2.12
14	2.24
15	3.81
16	3.81
17	3.52
18	1.12
19	1.60
20	1.45



#### 受講生の傾向

おおむね熱心であると考えられる。

ただし、計算能力や学習意欲が低い学生も散見される。

予習・復習の時間が比較的少ないことから、もう少し課題を増やすなど工夫が必要かもしれない。

答案練習会に参加している学生が少なく、知識のアウトプットに不安がみられる。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

受講生のレベルにあった知識の提供を段階的に実施している。

出来る限り学生の質問・要望を聞くなど、双方向の授業を意識した。

ただし、基本的な知識のない学生が知識を十分に習得できたかどうかについては不明である。

#### 今後の対応

各先生毎の授業の内容が体系的に習得されているのかが課題となる。

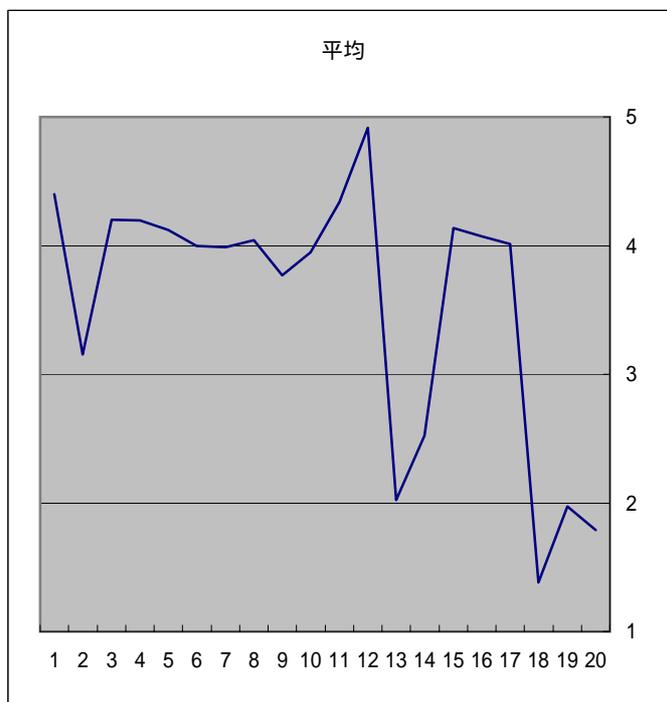
そのためにも、中間チェックや基本知識の全体的なチェックが求められると考えられる。

授業毎の小テストの実施など、知識の定着率などを図る必要がある。

答案練習会の授業内容との連携の実施が課題となると思われる。

科目： 監査系(監査実施論、監査報告論、監査事例研究)  
 配当年次：1年次 開講時限：秋学期  
 受講者数：99 回答者数：53

質問	平均
1	4.40
2	3.15
3	4.20
4	4.20
5	4.12
6	4.00
7	3.99
8	4.04
9	3.77
10	3.95
11	4.34
12	4.91
13	2.02
14	2.52
15	4.14
16	4.07
17	4.01
18	1.38
19	1.97
20	1.79



#### 受講生の傾向

受講生の出席状況(質問12)は、最も低いもので80%、高いもので100%となっており、基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

参加意欲が高い割に、受講者の予習復習(質問13・14)の時間が非常に短く、報告を担当する受講者以外の勉強時間の少なさが目につく。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して利用するための資料を用意・配布しており、これは2006年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。

また発展科目に属する3つの科目では、ケース・スタディやプレゼンテーションで行なわれている。

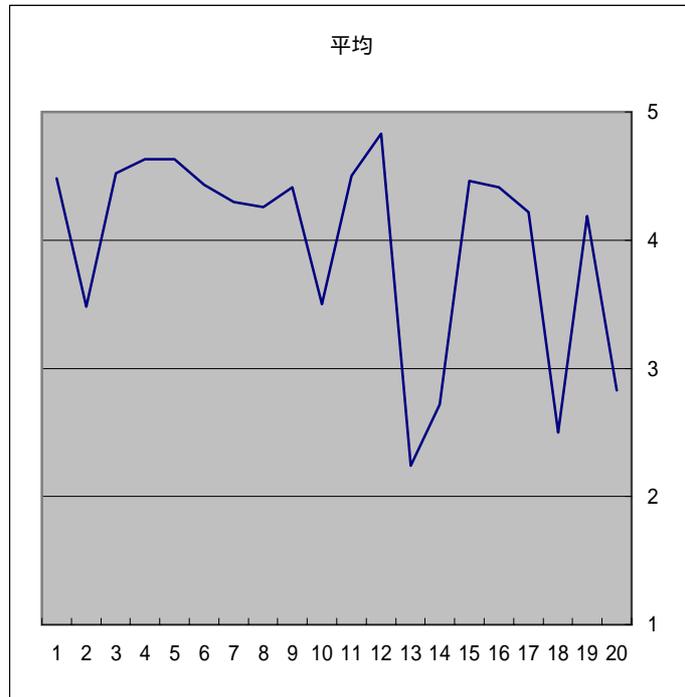
#### 今後の対応

ケース・スタディやプレゼンテーションによる双方向の授業スタイルが教育効果を持つためには、受講生のモラルの向上や理解度が不可欠である。そのためには、次年度に向けて教員側で受講生に対して予習復習を促すための施策がなされなければならない。

科目： 法律系(会社法)  
配当年次:1年次  
受講者数:53

開講時限:秋学期  
回答者数:46

質問	平均
1	4.48
2	3.48
3	4.52
4	4.63
5	4.63
6	4.43
7	4.30
8	4.26
9	4.41
10	3.50
11	4.50
12	4.83
13	2.24
14	2.72
15	4.46
16	4.41
17	4.22
18	2.50
19	4.19
20	2.83



#### 受講生の傾向

春学期の法律系科目の連動で見ると、法律科目に慣れてきているのが感じられた。  
その反面、苦手科目としてしまい、興味をなくしてしまう傾向も同時にある。  
この段階になって、春学期からの学習の成果も出て、一気に学力が伸びる学生もいた。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

春学期の「企業法入門」と次年度の「判例演習」との連続性を考慮した授業を行った。  
法的なものの考え方が身につくように心がけた。  
学習する範囲が広いので、授業で足りない分を補講で補った。

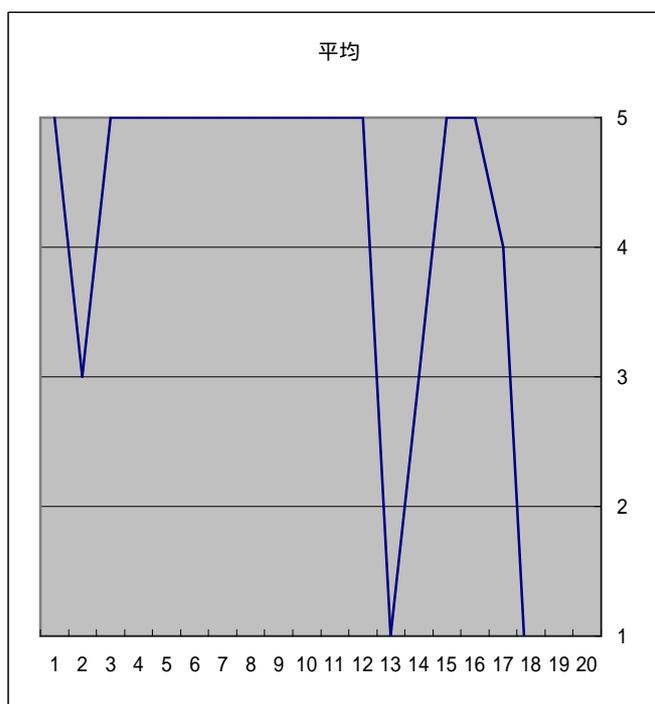
#### 今後の対応

授業の範囲内で学習が終えられるよう、効率のいい授業を行いたい。  
レジュメと板書のバランスのいい授業を行いたい(特にホワイトボードが小さく使いづらく見づらかった)。

科目： ファイナンス系(コーポレート・ファイナンス論)  
配当年次:1年次  
受講者数:8

開講時限:秋学期  
回答者数:1

質問	平均
1	5.00
2	3.00
3	5.00
4	5.00
5	5.00
6	5.00
7	5.00
8	5.00
9	5.00
10	5.00
11	5.00
12	5.00
13	1.00
14	3.00
15	5.00
16	5.00
17	4.00
18	-
19	-
20	-



#### 受講生の傾向

- 1) 全体に出席率も良く、課題についてもほぼ提出されていた。
- 2) 講義中にも質問が比較的好く出されていた。
- 3) 理論が中心となったが、基本的な枠組みについては理解されていたと思われる。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 理論、数式、概念図、数値例を合わせて理解できるように工夫した。
- 2) 特に、数式の展開においては、基礎的な考えが理解できるように説明した。
- 3) 理論と合わせて現実の企業の動向も紹介することで、興味を持たせるようにした。
- 4) レジメは文章とし、後で確認を行えるようにした。

#### 今後の対応

- 1) 数値例をもっと多用することで、理解力を高める。
- 2) 企業経営自体、金融商品の基礎知識に乏しい受講生にもより配慮をする。
- 3) 一方的な講義ではなく、講義の中により質疑の時間を取り入れる。
- 4) 事例を入れた課題を出す等により、予習を取り入れるようにする

科目： 経済・統計系(統計学)

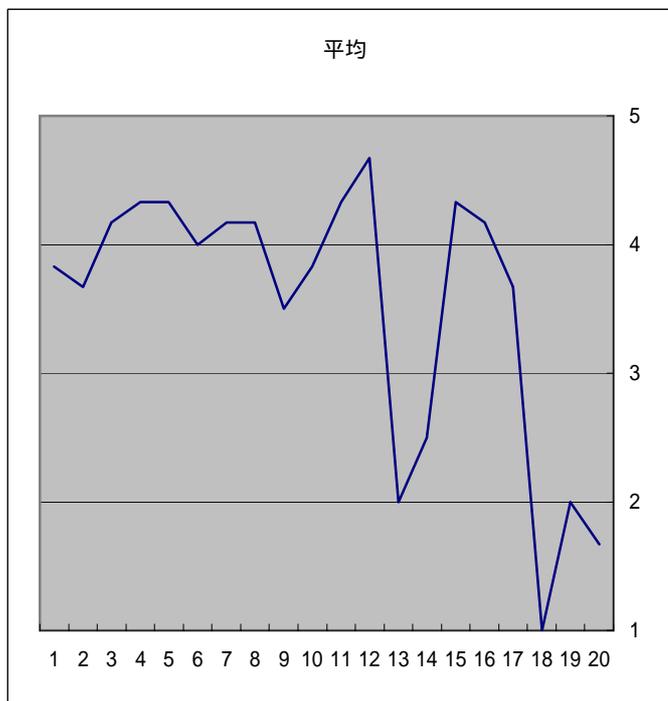
配当年次:1年次

開講時限:秋学期

受講者数:7

回答者数:6

質問	平均
1	3.83
2	3.67
3	4.17
4	4.33
5	4.33
6	4.00
7	4.17
8	4.17
9	3.50
10	3.83
11	4.33
12	4.67
13	2.00
14	2.50
15	4.33
16	4.17
17	3.67
18	1.00
19	2.00
20	1.67



#### 受講生の傾向

正規の受講申請者以外にも数人の聴講生が出席している。全員非常に真面目で熱心であり、講義をしていても気持ちがいい。教員がホワイトボードに書く説明は熱心にノートを取り、また順次発表させても、事前にきちんとした発表用のレジユメを作成している。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

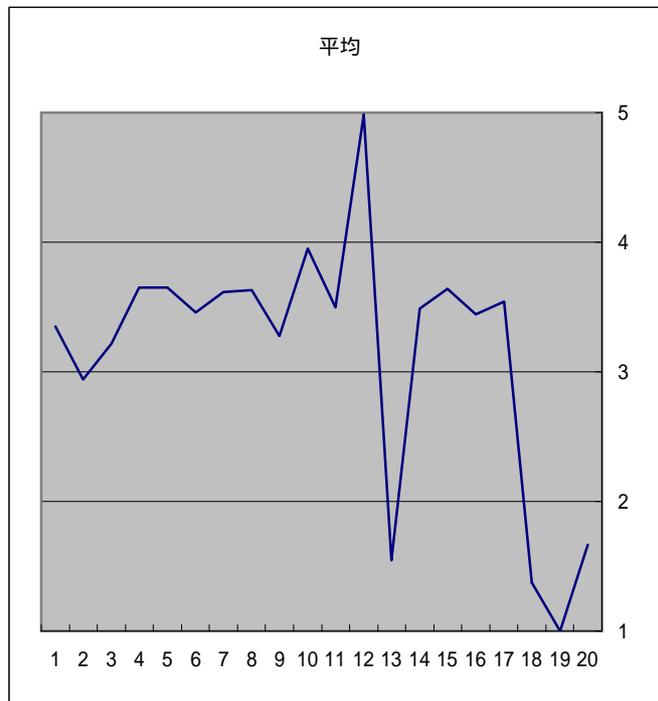
学部時代に経済学を勉強した受講生と経済学を受けた経験のない受講生がいるので、全員に理解しやすいように、少し基礎的なところから講義を行った。経済学では、数式や図を用いるが、できる限り分かりやすい図を用いて、さらにそれを数式でも説明するようにした。

#### 今後の対応

経済学の学習に必要な「基礎的な経済数学」を受講前に学習できるような体制をつくる工夫をする。

科目： IT・ビジネススキル系(基本会計プログラム演習、基本監査プログラム演習)  
 配当年次:1年次  
 受講者数:51 回答者数:32

質問	平均
1	3.35
2	2.94
3	3.22
4	3.65
5	3.65
6	3.46
7	3.62
8	3.63
9	3.28
10	3.95
11	3.50
12	4.99
13	1.55
14	3.49
15	3.64
16	3.45
17	3.54
18	1.38
19	1.00
20	1.67



#### 受講生の傾向

コンピュータ(プログラム)に関する知識が全くない学生がほとんどであった。  
 しかし、熱心に受講することで、新たな知識を得ようとする学生がそのほとんどであった。  
 また、出席率はほぼ100%であった。

#### 講義で工夫したこと・留意したこと

コンピュータ知識、会計ソフトに関する知識がない学生がほとんどであることや本講義に適切な教科書類が少ないことを考慮し、予習よりも復習に重点を置き、復習課題で習熟度が上がるよう努めた。

前半は、パワーポイントによるスライドや必要な基準等を配布し、重要論点の確認を行い、後半に、その実習という形で、内容の理解と実践的な運用とをつなげるようにした。

また、質疑応答と復習を徹底した。

#### 今後の対応

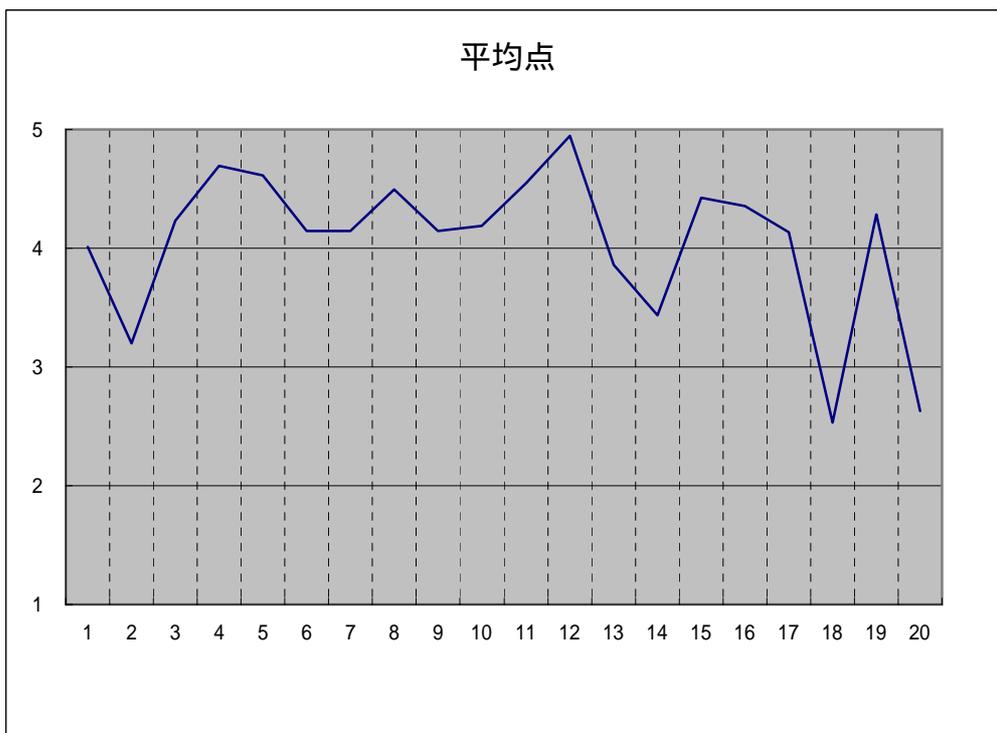
積極的な学生と消極的な学生があり、消極的な学生にも効果的な質疑応答を考える。

予習しやすいような教材を用意する必要がある。

公認会計士業務と本講義の内容との関係を伝え、意義を理解させる努力を講じる。

系： 個別演習科目(アカデミック・ソリューション)  
受講者数:64 回答者数:34

質問	平均
1	4.01
2	3.20
3	4.23
4	4.69
5	4.61
6	4.14
7	4.15
8	4.50
9	4.15
10	4.19
11	4.55
12	4.94
13	3.86
14	3.44
15	4.43
16	4.35
17	4.14
18	2.53
19	4.28
20	2.63
回答者数	34

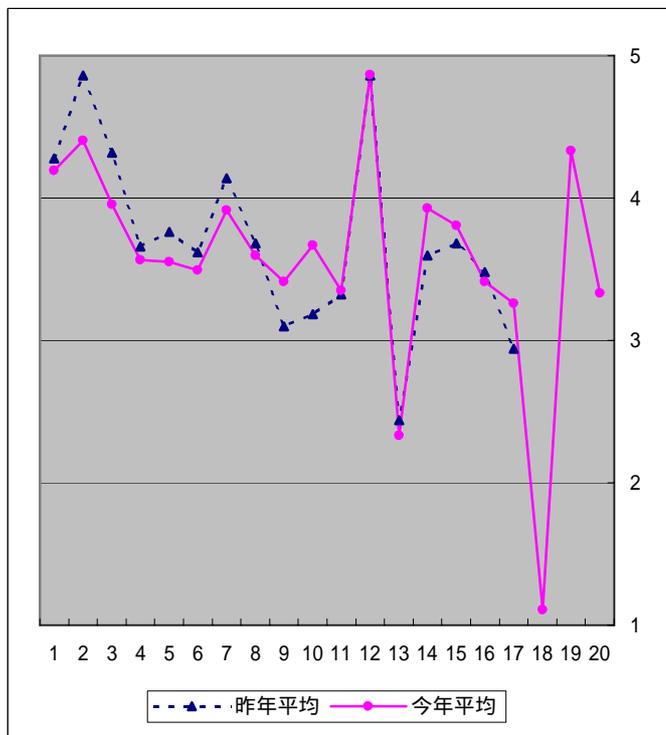


## **. 19 年度春学期 授業評価アンケート結果概要**

科目：上級簿記  
 配当年次：1年次  
 受講者数：81

開講時限：火2～3，水2～3  
 回答者数：69

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.19	5	5	1
2	4.86	4.41	5	5	1
3	4.32	3.96	4	5	1
4	3.66	3.57	4	5	1
5	3.76	3.55	4	5	1
6	3.62	3.49	4	5	1
7	4.14	3.91	4	5	1
8	3.68	3.59	4	5	1
9	3.10	3.41	3	5	1
10	3.18	3.67	4	5	1
11	3.32	3.35	4	5	1
12	4.86	4.87	5	5	1
13	2.44	2.33	1	5	1
14	3.60	3.93	5	5	1
15	3.68	3.81	5	5	1
16	3.48	3.41	4	5	1
17	2.94	3.26	4	5	1
18	1.53	1.11	1	4	1
19	2.28	4.33	5	5	3
20	2.04	3.33	2・3・5	5	2
回答者数	50	69			



### 受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態であったが、なかには定期的に遅れてくる学生もいて、注意を促すことがあった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている学生が多く、私語はほとんどない状態だった。

ただし、講義時間中に集中力が途切れる学生もいて、特に問題演習の時間に仮眠をとったり、退屈気味にする学生が目立った。

しかしながら、試験の結果を見てみると、講義時間外で問題演習を行っていた形跡が見られ、知識の定着度は全体的に高かった。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同じく、パワーポイントとオリジナル問題を中心とした講義を展開した。

パワーポイントの資料は、学生の理解を高めることを念頭において、昨年度のものを全面的に作り直した。

特に、会計処理の考え方と計算過程を詳しく示し、解法のテクニックよりも解説に力点をおく資料作りを行った。

昨年度よりも多くのオリジナル問題を作成し、多くの学生の疑問に応えられるように解答解説の分量を増やした。

会計基準や実務指針の原文にできるだけ忠実な説明を心がけ、学生に原文を見るように促した。

暗記よりも理解させることに力点をおき、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義の範囲が広く、問題演習に十分な時間が取れないので、講義の時間配分を考える。

学生一人ひとりの理解度に差があるので、それに応じた効果的な問題作成を心がける。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」

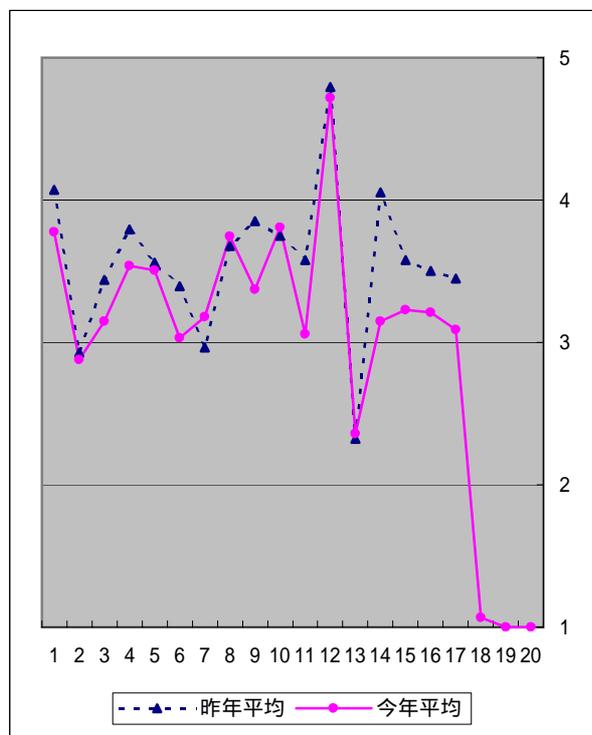
講義資料と講義展開の両面において、学生の理解を高めることができる工夫を凝らしていく。

講義時間内にできるだけ多くの演習時間を確保し、学生の疑問を学生の理解度に応じてその場で解消できるようにしていく。

科目： 財務会計論  
 配当年次：1年次  
 受講者数：79

開講時限： 月2木3, 月3木2  
 回答者数：69

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	3.78	4	5	1
2	2.93	2.88	3	4	1
3	3.44	3.15	3	5	1
4	3.79	3.54	4	5	1
5	3.56	3.51	4	5	1
6	3.40	3.03	3	5	1
7	2.96	3.18	3	5	1
8	3.68	3.75	4	5	1
9	3.85	3.37	4	5	1
10	3.75	3.81	4	5	1
11	3.58	3.06	4	5	1
12	4.80	4.72	5	5	1
13	2.32	2.36	2	5	1
14	4.05	3.15	3	5	1
15	3.58	3.23	3	5	1
16	3.50	3.21	4	5	1
17	3.45	3.09	4	5	1
18	2.15	1.07	1	4	1
19	2.29	1.00	1	1	1
20	2.55	1.00	1	1	1
回答者数	59	69			



### 受講生の傾向

受講生のレベルに2極分化現象が見られた。受講生の1割程度の院生は、昨年より優れたレベルであったが、全体としては昨年より低下していた。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の講義内容に含まれていなかった基礎的内容に関する講義を2回分導入し、当該回数分だけ昨年の講義内容の圧縮を図った。

### 今後の対応

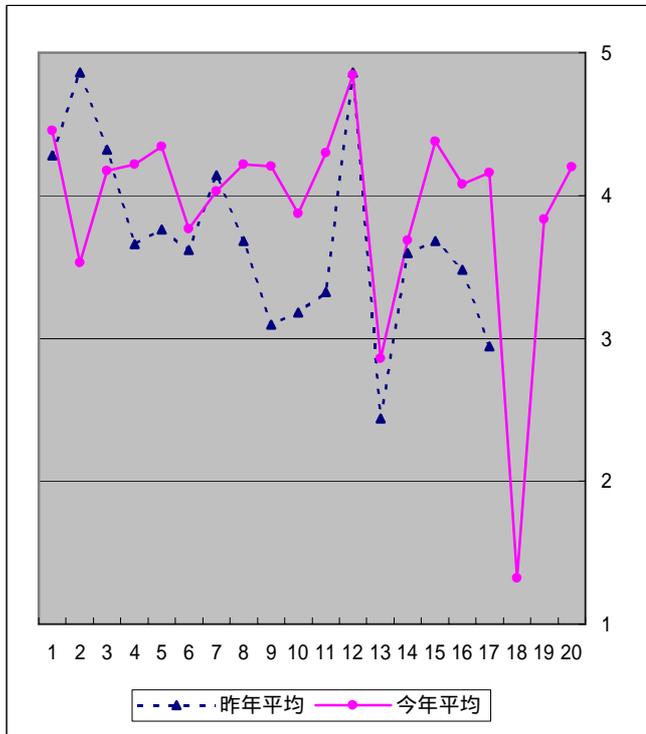
昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」  
 学生の予習・復習が効果的になるように、レジュメ配付のタイミングを見直す。  
 授業の進度を少し速めて緊張感を与える。  
 改変極まりない会計基準・制度ではあっても、現代社会のもとで依然として有効に機能している従来の基礎的部分については言及し、その重要性を認識させるように努める。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」  
 基礎的かつ包括的内容の充実を図る。

科目： 上級原価計算論  
 配当年次：1年次  
 受講者数：79

開講時限： 水2～3, 月2～3  
 回答者数：67

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.45	5	5	3
2	4.86	3.53	3	5	2
3	4.32	4.17	4	5	3
4	3.66	4.22	4	5	2
5	3.76	4.34	5	5	2
6	3.62	3.77	4	5	1
7	4.14	4.03	4	5	2
8	3.68	4.22	4	5	3
9	3.10	4.20	4	5	1
10	3.18	3.88	4	5	1
11	3.32	4.30	5	5	1
12	4.86	4.84	5	5	1
13	2.44	2.86	3	5	1
14	3.60	3.69	4	5	1
15	3.68	4.38	5	5	2
16	3.48	4.08	4	5	2
17	2.94	4.16	4	5	2
18	1.53	1.32	1	5	1
19	2.28	3.83	5	5	1
20	2.04	4.20	5	5	3
回答者数	59	67			



### 受講生の傾向

原価計算については、一部において計算能力の高い学生が入学している。  
 その一方で、計算能力の相対的に低い学生が存在し、両者の幅は拡大傾向にある。  
 学習意欲の面でも、上位学生と下位学生の幅は拡大傾向にある。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

計算能力が不十分の学生を引き上げるため、授業実施の面で次のような工夫をした。  
 ゆっくり話し、同じ内容を別の言葉で何度も説明するよう心がけた。  
 数回の補講を実施し、可能な限り時間をかけるようにした。  
 Bクラス(初学者対象)については基本的な計算問題に焦点を当てて授業を進めた。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」  
 予習の時間が短いことから、事前課題などにより対応することが必要であると考え。  
 答案練習との連動が必要であるため、その一部を授業で取り込む必要があると考える。  
 上記の内容を踏まえた「今後の対応」  
 次のようなより実践的な問題を解く機会を来年度以降に設けることを計画している。  
 日商簿記検定1級  
 公認会計士試験短答式

科目： 上級管理会計論

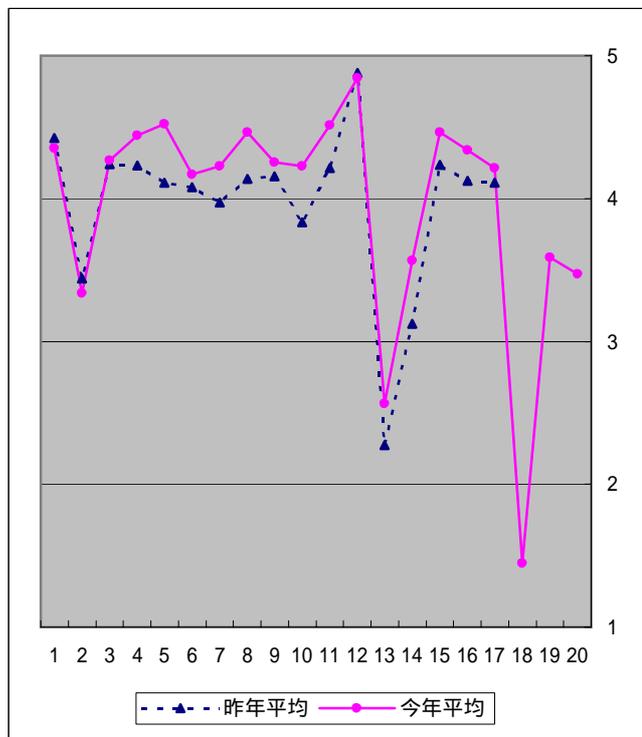
配当年次:1年次

受講者数:83

開講時限： 火3木2， 火2木3

回答者数:74

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.42	4.35	4	5	2
2	3.44	3.34	3	5	1
3	4.24	4.27	4	5	3
4	4.23	4.44	5	5	2
5	4.11	4.52	5	5	3
6	4.08	4.17	4	5	1
7	3.97	4.23	4	5	2
8	4.14	4.46	5	5	3
9	4.16	4.25	4	5	2
10	3.83	4.23	4	5	2
11	4.21	4.51	5	5	3
12	4.88	4.84	5	5	4
13	2.28	2.56	3	5	1
14	3.12	3.56	3	5	1
15	4.23	4.46	5	5	2
16	4.12	4.34	5	5	2
17	4.11	4.21	4	5	1
18	1.94	1.45	1	5	1
19	2.70	3.59	3	5	1
20	2.29	3.47	3	5	1
回答者数	66	74			



### 受講生の傾向

管理会計については、原価計算と同様に計算能力や学習意欲の面で上位者と下位者の差が激しくなっている。

ただし、理論的な側面についての学習進捗度は、おおむね昨年度と同様である。

特徴的なこととして、計算能力や学習意欲の面で上位の者が、理論についていびつな学習をしている。

・例:原価計算の特殊な(マイナーな)方法の解説が管理会計であると理解し精力的に取り組んでいる。

・例:管理会計の基本的な用語を断片的に用いて解説しようとする。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

計算能力が不十分な学生を引き上げるため、授業実施の面で次のような工夫をした。

管理会計の特徴について理解できるように基本概念の説明に注力した。

数回の補講を実施し、できるだけ授業の場で対応した。

計算技法についても、新しい部分についてはとくにゆっくり説明した。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

事前課題や答案練習との連動を進める必要があると考えられる。

基本的なテキストの指定と基本概念の整理を行う必要がある。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本的なテキストを開発し、そのテキストに沿って体系的に学習させることを考えている。

・テキスト:来年度出版予定

科目： 監査制度論

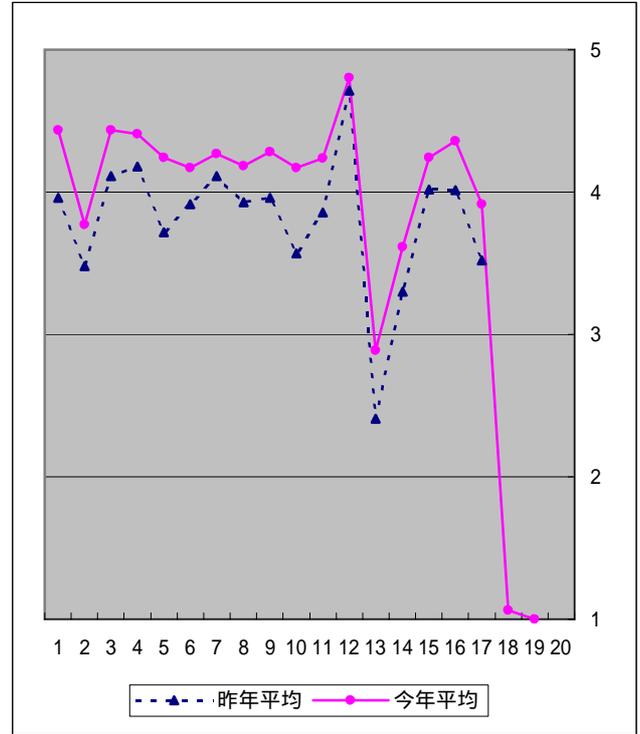
配当年次:1年次

受講者数:78

開講時限： 火2金3， 火3金2

回答者数:71

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.96	4.44	5	5	2
2	3.48	3.77	3	5	2
3	4.11	4.44	5	5	3
4	4.18	4.41	5	5	3
5	3.72	4.24	4	5	2
6	3.91	4.17	4	5	2
7	4.11	4.27	5	5	2
8	3.93	4.18	4	5	3
9	3.96	4.28	4	5	1
10	3.57	4.17	4	5	2
11	3.85	4.24	5	5	3
12	4.71	4.80	5	5	3
13	2.41	2.89	3	5	1
14	3.30	3.61	5	5	1
15	4.02	4.24	5	5	2
16	4.01	4.36	4	5	2
17	3.52	3.91	4	5	1
18	1.74	1.06	1	2	1
19	2.84	1.00	1	1	1
20	2.17	0.00	0	0	0
回答者数	56	71			



### 受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率はかなり高く85～93%となっている。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間が昨年度よりは増えたとはいえ1時間(項目13)と短く、復習時間も向上は見られるものの1時間半(項目14)となっているため、相変わらず望ましい状況とは言えない。

Class AとClass Bの間での理解度の差が、小テスト及び期末試験から判断すると大きい(ただし、Class AとClass Bを区別していないアンケート集計結果からは不明)。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度から制度改正等に伴う箇所や不備のあった箇所などを改訂したパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。

スライドの最後には、去年同様に、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。

授業が2回終了する(1週間)ごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15～20分程度で実施し、添削後、返却した。最終的に、各クラスで6回分の小テスト実施 添削 返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、去年以上に心懸けた。この結果、全ての評価項目で昨年度を上回っている。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

こちらの期待に反して、受講生の側での予習・復習の時間が相対的に少ないため、復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

授業時間中の受講生側の理解度を確認するために、適時に指名して答えさせる必要がある。このことは、授業時間中の緊張感を保つことにも資すると考えられる。

答案練習会との連動を図る必要がある。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習の時間を確保させるために小テスト返却時に最低限度の講評とともに、成績優秀者の答案を学籍番号・氏名を伏してコピーし全員に配布するようにした。この結果、若干ではあるが、受講生のモラルの向上に貢献したのか、昨年度に比べると予習と復習の時間に増加が見られた。

昨年度、案出した「指名」による質問は、授業進度を著しく低下させることが判り、今年度は実施していない。

答案練習会との連動は未だ実施できていない。

科目： 監査基準

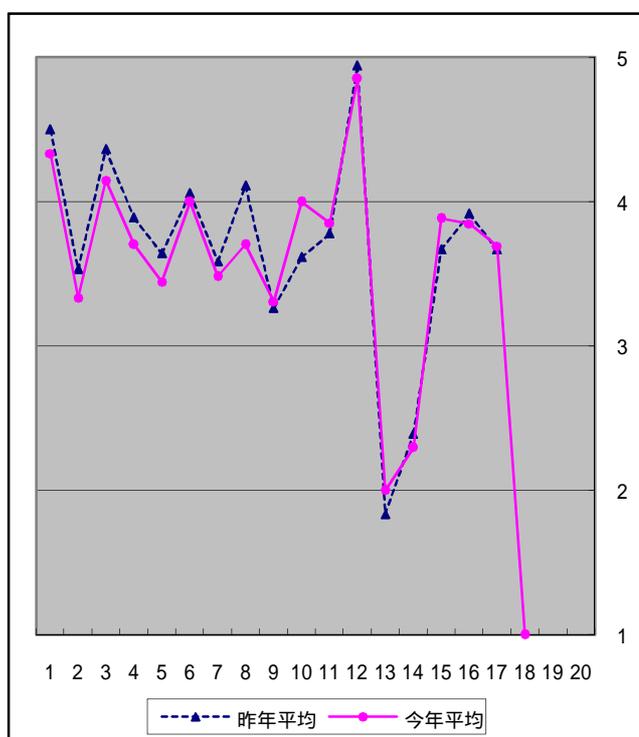
配当年次：1年次

受講者数：78

開講時限： 金2, 金3

回答者数：27

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.33	4	5	3
2	3.53	3.33	3	5	3
3	4.36	4.15	4	5	2
4	3.89	3.70	4	5	2
5	3.64	3.44	3	5	1
6	4.06	4.00	4	5	2
7	3.59	3.48	3	5	2
8	4.11	3.70	3	5	1
9	3.26	3.31	3	5	1
10	3.62	4.00	4	5	3
11	3.78	3.85	4	5	2
12	4.94	4.85	5	5	1
13	1.83	2.00	1	5	1
14	2.39	2.30	1	5	1
15	3.67	3.88	4	5	3
16	3.92	3.85	4	5	2
17	3.67	3.69	4	5	2
18	1.80	1.00	1	1	1
19	2.67	0.00	0	0	0
20	2.16	0.00	0	0	0
回答者数	36	27			



### 受講生の傾向

監査基準の学習経験のある学生と全くない学生との差が大きく、焦点をしばれない。

AクラスとBクラスで授業への取り組み態度に差があるように感じた。

全体としては出席状況は良好であった。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初回到授業全体のスケジュールを説明し、毎回、次回の授業内容を予告し予習しやすいようにした。  
理解を深め、また、最新の情報を提供できるよう、補助資料をできるだけ準備した。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義形式で単調になりやすいため、メリハリをつけるよう工夫する。

講義形式ではあるがときどきディスカッションも加えるようにする。

学生が予習しやすいよう、当該授業の終了時に次回の授業内容を簡単に予告する。

レジュメをもう少し簡素化する。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最近の情報提供を心がける。

初心者でも理解できるよう基礎的な内容を中心としつつ、学習経験のある学生の復習にもなるような授業を工夫する。

科目： 企業法入門

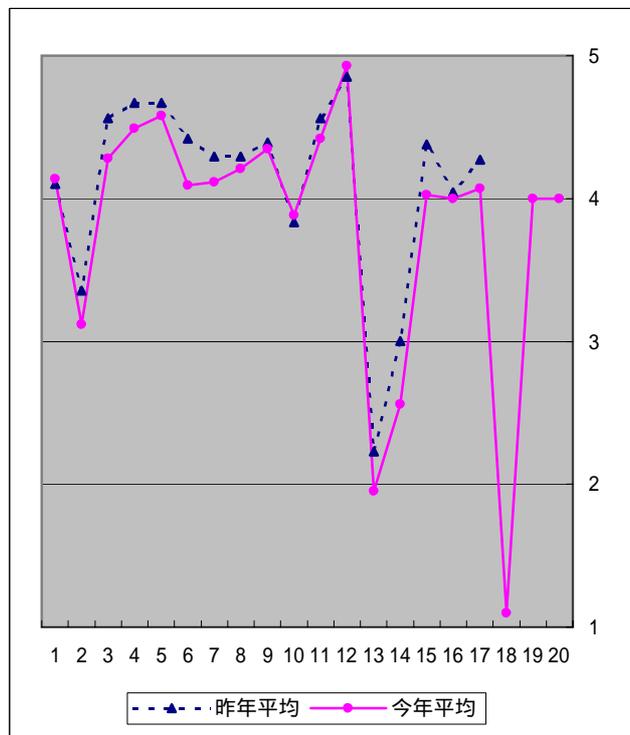
配当年次：1年次

受講者数：78

開講時限： 月3木2, 月2木3

回答者数：44

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.10	4.14	4	5	1
2	3.35	3.12	3	4	2
3	4.56	4.28	4	5	3
4	4.67	4.49	5	5	3
5	4.67	4.58	5	5	4
6	4.42	4.09	4	5	3
7	4.29	4.12	4	5	3
8	4.29	4.21	4	5	3
9	4.39	4.35	4	5	3
10	3.83	3.88	4	5	2
11	4.56	4.42	4	5	3
12	4.85	4.93	5	5	4
13	2.23	1.95	1	5	1
14	3.00	2.56	2	5	1
15	4.38	4.02	4	5	2
16	4.04	4.00	4	5	2
17	4.27	4.07	4	5	1
18	3.13	1.10	1	4	1
19	4.03	4.00	4	4	4
20	2.75	4.00	4	4	4
回答者数	48	44			



### 受講生の傾向

まじめに出席している学生が多く、遅刻する学生もほとんどいなかった。  
法律科目が始めたの学生も多く、はじめは戸惑っているような印象を受けた。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は毎回の授業時にレジュメを配布したが、今年度は最初の授業時にすべての回のレジュメを配布し、次回の授業内容をあらかじめ明確にした。

授業についてくることが困難な学生に対して補習授業を行った。

補習授業を行うことで、全体としてのレベルを下げないように心がけた。

### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

学生のレベルに差があるので、それぞれの学生に応じた授業ができるように配慮したい。

学生に予習・復習を促すとともに、具体的な予習・復習の内容を伝えることで学生の予習・復習に対する便宜を図りたい。

より効率のよい授業ができるように、レジュメの作成およびホワイトボードの利用について改善を図りたい。

上記の内容を踏まえた「今後の対応」

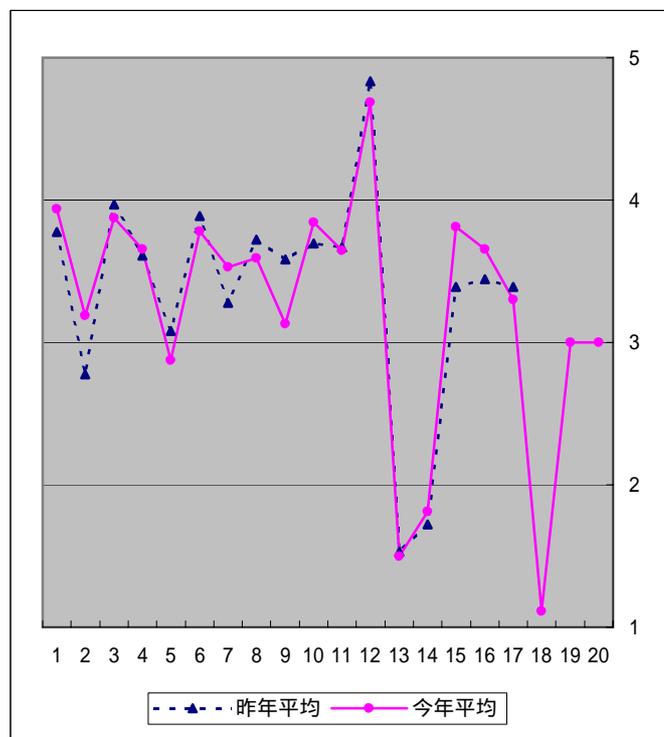
企業法入門は、他の商法・会社法という科目と連続するので、企業法入門レジュメ配布時に、連続する科目のレジュメも配布し、予習や深く学習するための便宜を図りたい。

今後も引き続き補習授業を続けたい。

科目： 実践経営管理論  
 配当年次：1年次  
 受講者数：76

開講時限： 土2, 土3  
 回答者数：32

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.78	3.94	4	5	3
2	2.78	3.19	3	5	1
3	3.97	3.88	4	5	2
4	3.61	3.66	4	5	2
5	3.08	2.88	2	5	1
6	3.89	3.78	4	5	2
7	3.28	3.53	4	5	2
8	3.72	3.59	3	5	2
9	3.58	3.13	3	5	1
10	3.69	3.84	4	5	2
11	3.67	3.65	4	5	2
12	4.84	4.69	5	5	2
13	1.53	1.50	1	4	1
14	1.72	1.81	1	3	1
15	3.39	3.81	3	5	2
16	3.44	3.66	4	5	2
17	3.39	3.30	3	5	1
18	1.04	1.11	1	2	1
19	1.19	3.00	3	3	3
20	1.36	3.00	3	3	3
回答者数	36	32			



### 受講生の傾向

熱心な取り組みの学生が多かったが、全般におとなしく受身という感があった。  
 広い範囲を短期間にカバーした授業であったが、平均的な理解度は高かったと判断。  
 ただし、経験・知識レベルに差があり、それが理解度の差になっていると想定される。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度において理解度が低い部分に関しては配布資料の説明を補強した。  
 資料の流れについて再編した。  
 事例の説明を補強した。

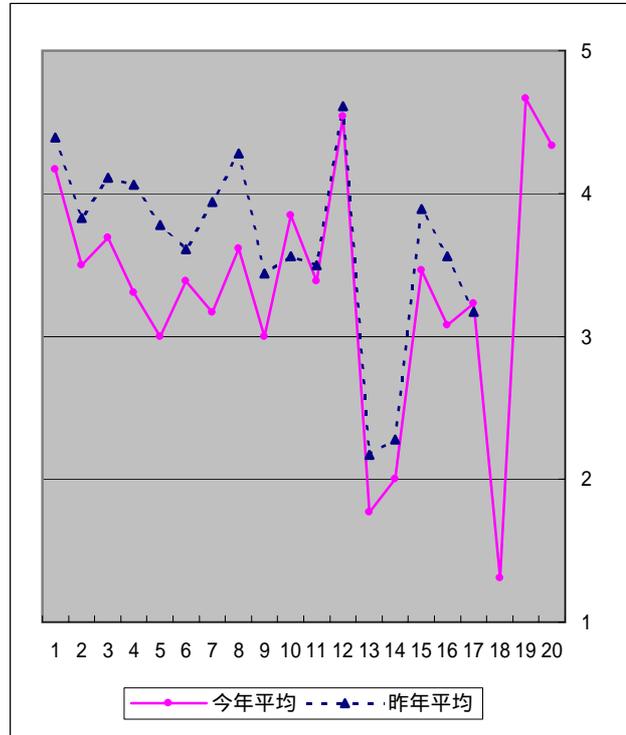
### 今後の対応

昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」  
 知識レベルに差がある受講者を対象とした資料作成を心がける。  
 より能動的な授業にするために、Q & Aの時間をもう少し増やす。  
 講義内容の定着を図るための課題提出を実践する。  
 上記の内容を踏まえた「今後の対応」  
 知識の習得だけでなく、自ら思考する機会を設ける。  
 授業のスコープについては大幅に見直すことを予定する。

科目： 上級税務会計論  
 配当年次：1年次  
 受講者数：31

開講時限： 金4  
 回答者数：13

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.39	4.17	4	5	1
2	3.83	3.50	3	5	3
3	4.11	3.69	4	5	1
4	4.06	3.31	3	5	1
5	3.78	3.00	3	5	1
6	3.61	3.38	4	5	1
7	3.94	3.17	3	5	1
8	4.28	3.62	4	5	1
9	3.44	3.00	3	5	2
10	3.56	3.85	4	5	1
11	3.50	3.38	4	5	1
12	4.61	4.54	5	5	1
13	2.17	1.77	1	4	1
14	2.28	2.00	2	4	1
15	3.89	3.46	4	5	1
16	3.56	3.08	3	5	1
17	3.17	3.23	4	5	1
18	1.25	1.31	1	2	1
19	2.33	4.67	5	5	4
20	1.85	4.33	4	5	4
回答者数	18	13			



### 受講生の傾向

税務だけでなく簿記も学習を始めたばかりの学生が見られた。  
 独自に税務を学習している学生も数名おり、学生間の知識の差が大きい。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

初回到授業全体のスケジュールを説明し、毎回、次回の授業内容を予告し、予習をしやすいようにした。

基礎的な導入部分に時間をかけた。  
 毎回、練習問題を取り入れた。

### 今後の対応

基礎的な導入部分に時間を十分割り振る。  
 項目数を限定して、基礎部分の理解が十分得られることを目標とする。

科目： 公会計理論

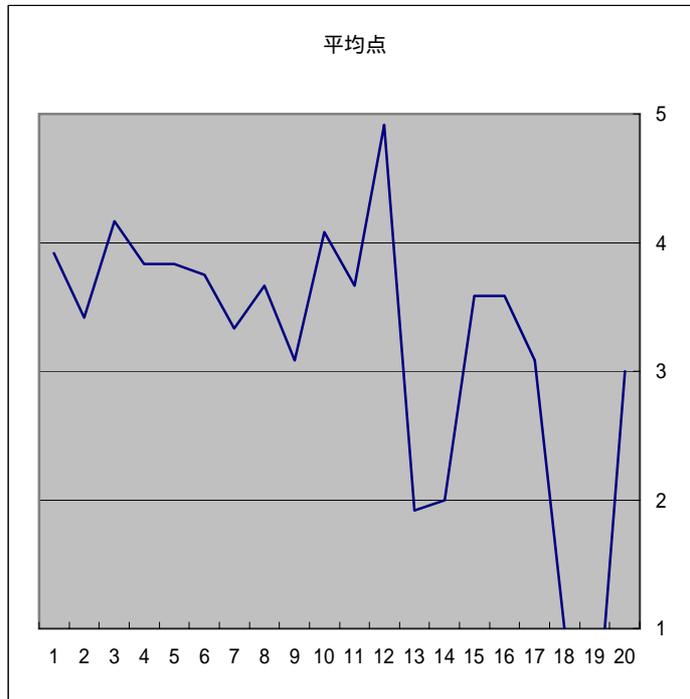
配当年次：1年次

受講者数：12

開講時限： 火4

回答者数：12

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.92	4	5	2
2	3.42	3	4	3
3	4.17	4	5	3
4	3.83	4	5	2
5	3.83	4	5	2
6	3.75	4	5	2
7	3.33	4	5	1
8	3.67	4	5	1
9	3.08	3	5	1
10	4.08	4	5	3
11	3.67	4	5	1
12	4.92	5	5	4
13	1.92	1	5	1
14	2.00	2	4	1
15	3.58	4	5	1
16	3.58	4	5	1
17	3.08	4	5	1
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	3.00	3	3	3



#### 受講生の傾向

受講生の出席状況は良かった。

これまで学習したことのない分野であったためか熱心に聴く様子が見られた。

メモ録りは非常に熱心であった割には試験の点数は低いと思われた。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

身近な問題や時事問題を会計的側面から取り上げた。

公会計の概要を一通り解説し理解させようとした。

受講生の質問をできるだけ受け、翌回にはその内容を全員の前で解説した。

#### 今後の対応

レジュメの内容をさらに充実させる工夫を行う。

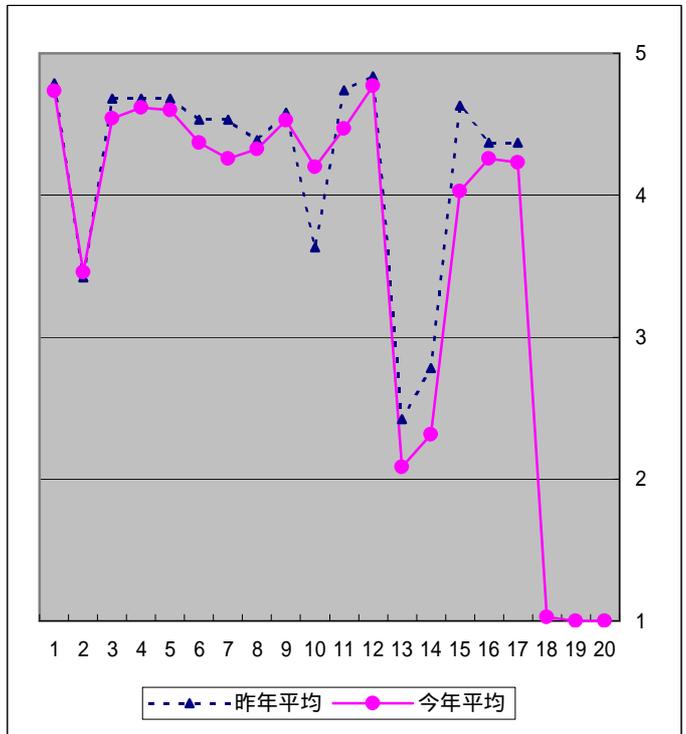
他のクラス(事例研究)等との重複を避ける。

他の領域(財政学、行政法等)との関係にも講義の中で言及する。

科目： 商法  
 配当年次：1年次  
 受講者数：41

開講時限： 月2木1, 月1木2  
 回答者数：35

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.74	5	5	3
2	3.42	3.46	3	5	3
3	4.68	4.54	5	5	3
4	4.68	4.62	5	5	3
5	4.68	4.60	5	5	4
6	4.53	4.37	4	5	3
7	4.53	4.26	4	5	3
8	4.39	4.32	5	5	3
9	4.58	4.53	5	5	3
10	3.63	4.20	4	5	1
11	4.74	4.47	5	5	3
12	4.84	4.77	5	5	4
13	2.42	2.09	2	5	1
14	2.78	2.31	2	5	1
15	4.63	4.03	4	5	2
16	4.37	4.26	4	5	3
17	4.37	4.23	4	5	3
18	2.33	1.03	1	2	1
19	3.75	1.00	1	1	1
20	2.61	1.00	1	1	1
回答者数	19	35			



### 受講生の傾向

受講している学生はまじめではあるが、1限目の授業時は遅刻する学生が見られた。  
 受講者数が41人と昨年度に比べて減少した。  
 内容がやや高度で速度も速いので、授業についてくるのが困難な学生がいた。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は毎回の授業時にレジユメを配布したが、今年度は最初の授業時にすべての回のレジユメを配布し、次回の授業内容をあらかじめ明確にした。

### 今後の対応

商法という科目は、企業法入門と連続する科目であるから、商法のレジユメの中にそれに該当する企業法入門の内容を入れて、商法の授業から企業法入門の授業へとフィードバックできるようにしたい。

科目： コーポレート・ガバナンス論

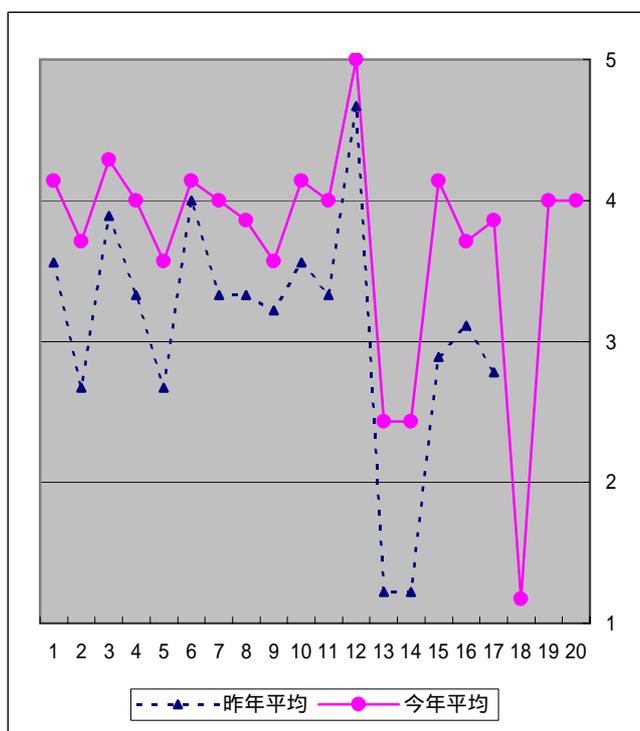
配当年次：1年次

開講時限：土1

受講者数：10

回答者数：7

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.56	4.14	4	5	3
2	2.67	3.71	4	5	3
3	3.89	4.29	4	5	4
4	3.33	4.00	4	5	2
5	2.67	3.57	4	5	2
6	4.00	4.14	4	5	3
7	3.33	4.00	4	5	3
8	3.33	3.86	4	5	2
9	3.22	3.57	4	5	2
10	3.56	4.14	4	5	3
11	3.33	4.00	5	5	2
12	4.67	5.00	5	5	5
13	1.22	2.43	3	3	1
14	1.22	2.43	3	3	1
15	2.89	4.14	4	5	2
16	3.11	3.71	4	5	2
17	2.78	3.86	4	5	2
18	1.00	1.17	1	2	1
19	1.00	4.00	4	4	4
20	1.57	4.00	4	4	4
回答者数	12	7			



### 受講生の傾向

遅刻が若干あったが、出席態度はまじめであった。  
相対的な理解度も高かったと判断している。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学際的な立場からガバナンスの問題に取り組んだ。  
また、通説だけではなく、企業の実体論からあるべき姿について言及した。  
企業の存在価値という本質論を常に意識してもらうことを心がけた。

### 今後の対応

知識習得だけではなく、自らの考えを醸成させることに挑戦してみたい。  
近年の動向を踏まえ、新たな方向性や可能性について盛り込む。

科目： インベストメント論

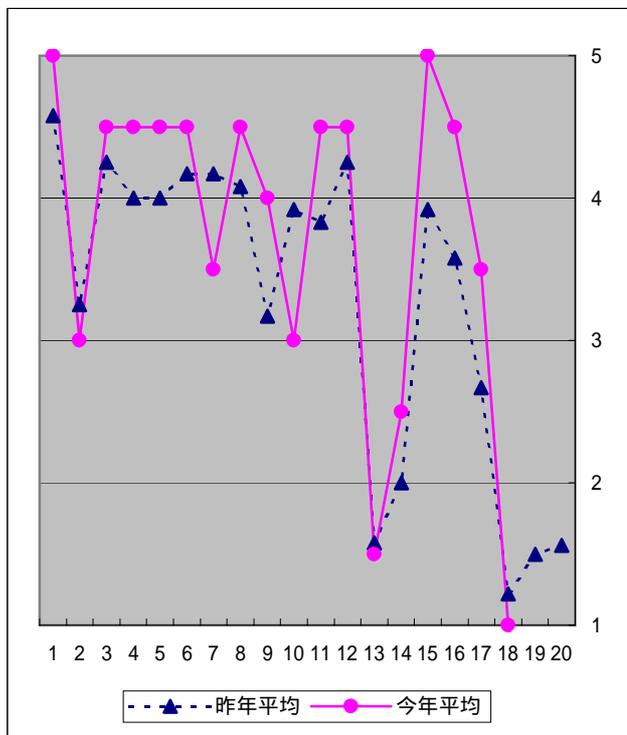
配当年次：1年次

受講者数：4

開講時限： 水1

回答者数：2

質問	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	5.00	5	5	5
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.25	4.50	4.5	5	4
4	4.00	4.50	4.5	5	4
5	4.00	4.50	4.5	5	4
6	4.17	4.50	4.5	5	4
7	4.17	3.50	3.4	4	3
8	4.08	4.50	4.5	5	4
9	3.17	4.00	4	4	4
10	3.92	3.00	2.4	4	2
11	3.83	4.50	4.5	5	4
12	4.25	4.50	4.5	5	4
13	1.58	1.50	1.2	2	1
14	2.00	2.50	2.3	3	2
15	3.92	5.00	5	5	5
16	3.58	4.50	4.5	5	4
17	2.67	3.50	3.4	4	3
18	1.22	1.00	1	1	1
19	1.50	0.00	0	0	0
20	1.56	0.00	0	0	0
回答者数	12	2			



### 受講生の傾向

- 1) 出席率自体はかなり高かった。
- 2) 講義を聴く姿勢には問題はないが、質問にはほとんど返答がないというケースが多かった。
- 3) 昨年に比べ、理解力の相対的に弱い受講生がいたため、数値例などを多くする工夫はしたが、十分なレベルには引き上げられなかった。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 数式、概念図、数値例を合わせて理論を理解することに留意した。
- 2) 現実の市場での動きなどを紹介し、理論と現実の接点を持てるように工夫した。
- 3) レジメは後で読んでも理解できるよう、文章にした。
- 4) デリバティブとストック・オプション会計など理論がどう現実に使われているかなど興味を持たせる工夫をした。

### 今後の対応

- 1) 基礎的な知識に乏しい受講生にも配慮して、講義の並びを再考する。
- 2) 数式に弱い受講生に理解させる工夫を考えたい。
- 3) 課題をもっと増やし、数値例などで実感を持てる形にする。
- 4) 予習を行うスタイルに切り替えていく(文章はできているので可能である)。

科目： ミクロ経済学

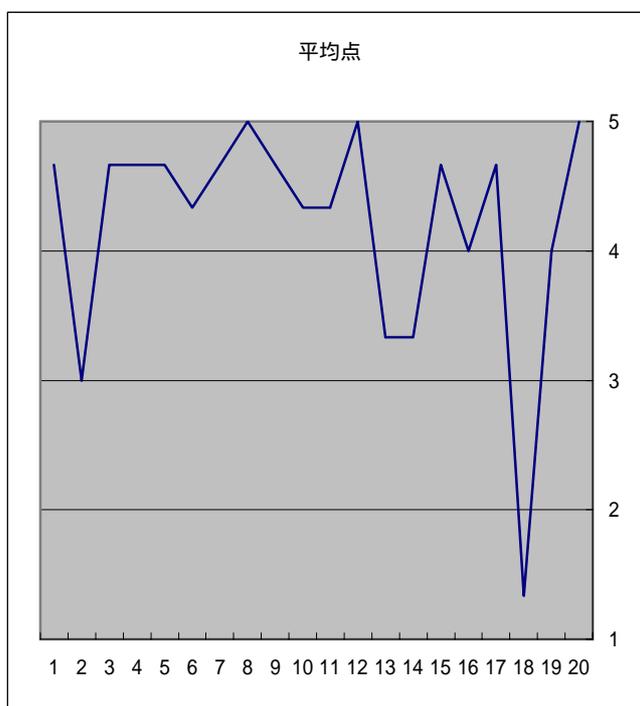
配当年次：1年次

開講時限： 土4

受講者数：4

回答者数：3

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5	5	4
2	3.00	3	3	3
3	4.67	5	5	4
4	4.67	5	5	4
5	4.67	5	5	4
6	4.33	5	5	3
7	4.67	5	5	4
8	5.00	5	5	5
9	4.67	5	5	4
10	4.33	5	5	3
11	4.33	5	5	3
12	5.00	5	5	5
13	3.33	3	4	3
14	3.33	3	4	3
15	4.67	5	5	4
16	4.00	3・4・5	5	3
17	4.67	5	5	4
18	1.33	1	2	1
19	4.00	4	4	4
20	5.00	5	5	5



### 受講生の傾向

受講生は非常に熱心であった。正規の受講申請者よりも聴講生の方が多く、聴講生でも無断欠席は非常に少なかった。私語もほとんどなく、熱心にホワイトボードに説明する文章や図式を書きとっていた。質問はあまりなかったが、少ない質問はポイントをついたいい質問が多かった。ただ、経済学では必須である「数学」の基礎学力が少ない受講生があり、ミクロ経済学以外の経済数学の講義をしなければならなかった。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学部時代に経済学の講義を受けた経験のある受講生が大半であったが、しかし学部時代に経済学を受講した経験のない受講生も出席していたので、彼らに対しては経済学の基礎から理解できるように、解りやすいように応用ではなく基本的な講義を行った。また、経済学では必須の「数学」が苦手な受講生が居たので、解析学の基礎を少し時間をとって行った。

### 今後の対応

本講義においては、ミクロ経済学の基礎を完全に理解できるようにすることに努める。但し、数学の知識を事前にある程度習得しておく必要がある。また、応用問題の対応はアカデミックソリューションなどで行うことにする。

科目： 国際会計制度論

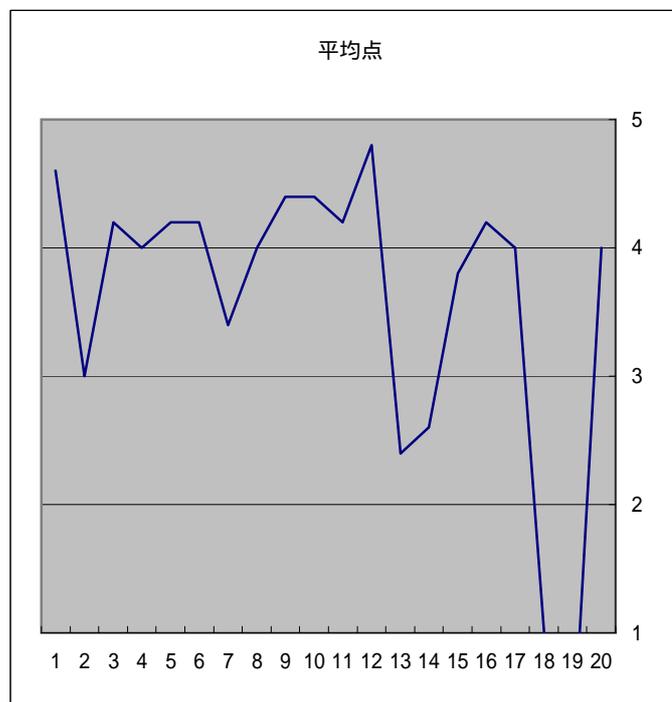
配当年次：2年次

開講時限： 水2

受講者数：11

回答者数：5

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	5	5	4
2	3.00	3	3	3
3	4.20	4	5	4
4	4.00	4	5	3
5	4.20	4	5	4
6	4.20	4	5	4
7	3.40	3	4	3
8	4.00	4	5	3
9	4.40	4	5	4
10	4.40	4	5	4
11	4.20	4	5	3
12	4.80	5	5	4
13	2.40	2	3	2
14	2.60	3	3	2
15	3.80	4	4	3
16	4.20	4	5	4
17	4.00	4	4	4
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	4.00	4	4	4



#### 受講生の傾向

受講生は極めて真剣に受講していた。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

変わりゆく国際会計制度の現実を可能な限りリアルに展開することに傾注した。

#### 今後の対応

激動する国際会計制度の現実を第一次情報に基づいて展開する。

科目： 企業価値計算論

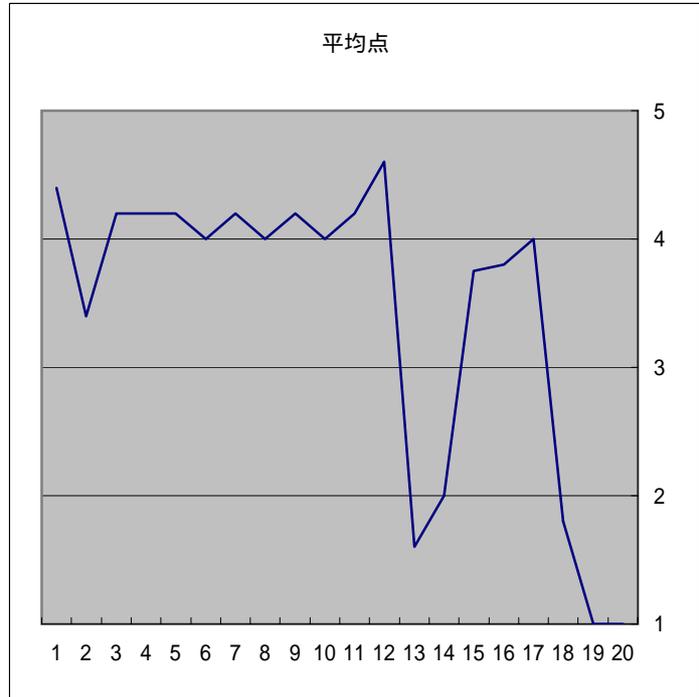
配当年次：2年次

開講時限： 火4

受講者数：9

回答者数：5

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4	5	4
2	3.40	3	4	3
3	4.20	4	5	4
4	4.20	4	5	4
5	4.20	4	5	4
6	4.00	4	5	3
7	4.20	4	5	3
8	4.00	4	5	3
9	4.20	4	5	4
10	4.00	3	5	3
11	4.20	4	5	3
12	4.60	5	5	3
13	1.60	2	2	1
14	2.00	2	3	1
15	3.75	4	4	3
16	3.80	4	5	3
17	4.00	4	5	3
18	1.80	1	5	1
19	1.00	1	1	1
20	1.00	1	1	1



#### 受講生の傾向

ほとんどの学生が熱心に受講していた。

ディスカッションでは、半数以上の学生が積極的に発言していた。

予習・復習のための時間をあまりとらないようである。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が講義に集中できるよう、レジュメ(PPのハンドアウト)は、講義終了時に配布した。

具体的な事例をできるだけ多く紹介し、学生の理解に努めた。

課題の内容は、書籍等を調べることであり、自ら考えること、自ら計算することを中心とした。

#### 今後の対応

講義内容への関心度に反して、学生の予習・復習の時間が少なく、

具体的な事例を紹介するだけでなく、学生も事前に調べてくるような課題設定を講じる。

科目： 政府会計論

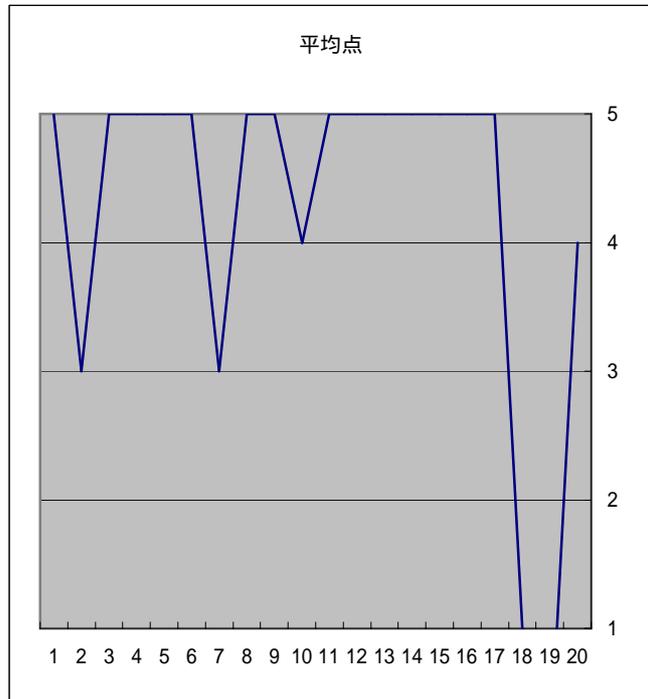
配当年次：2年次

受講者数：2

開講時限： 月2

回答者数：1

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5	5	5
2	3.00	3	3	3
3	5.00	5	5	5
4	5.00	5	5	5
5	5.00	5	5	5
6	5.00	5	5	5
7	3.00	3	3	3
8	5.00	5	5	5
9	5.00	5	5	5
10	4.00	4	4	4
11	5.00	5	5	5
12	5.00	5	5	5
13	5.00	5	5	5
14	5.00	5	5	5
15	5.00	5	5	5
16	5.00	5	5	5
17	5.00	5	5	5
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	4.00	4	4	4



#### 受講生の傾向

- 1) 履修生は2名なのだが、回答者が1名なので、回答結果は特定個人の意見という性質を帯びる。
- 2) 全質問のうち教師の評価に係る13項目(項目1から9、11、15から17)につき、この受講生はすべてにつき極めて高い評価を下している。項目7に関しては、授業で教材提示装置等を使用していないことから、評価を留保した回答だと理解できる。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 政府会計については全く知識のない学生が受講しているので、指定した教材から離れて基礎的な知識の説明に多くの時間を割り当てた。また、受講生に対して論点が明確な論文を与えて、そこから得られた知見を報告させた。受講生の一人は実際に市役所を訪れて職員から予算の仕組みなどを聞き出すなど積極的な学習をしていた。こうした行動を誘導するように課題を与えたことは成功かもしれない。

#### 今後の対応

- 1) 学年進行が可能になってきたので、公会計系のすべての科目で基礎知識の提供を行うことは不要になるかもしれない。次年度も受講生が少ないと予想されることやカリキュラム改正に際して政府会計論は自治体会計論と統合し「政府・自治体会計論」として提供することとした。

科目： 資本市場論

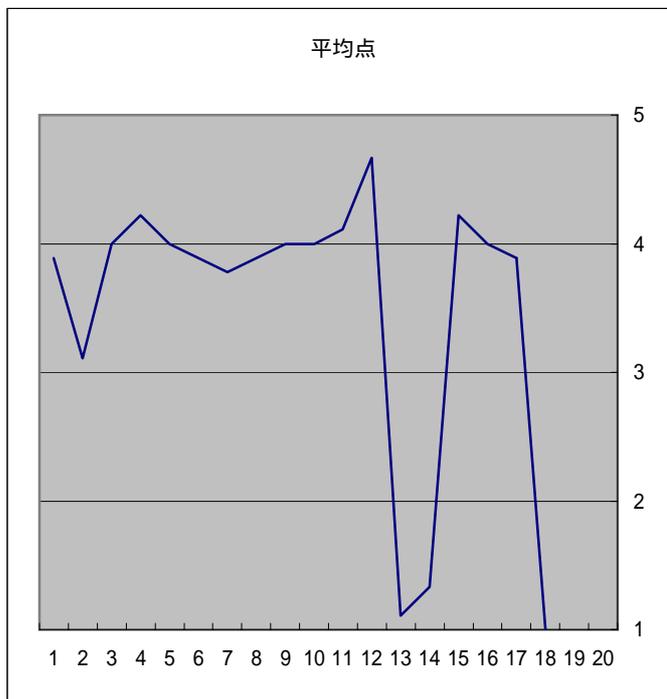
配当年次:2年次

開講時限： 火3

受講者数:19

回答者数:9

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.89	4	5	1
2	3.11	3	4	3
3	4.00	4	5	3
4	4.22	4	5	3
5	4.00	4	5	3
6	3.89	4	5	3
7	3.78	3	5	3
8	3.89	4	5	3
9	4.00	3	5	3
10	4.00	3	5	3
11	4.11	4	5	3
12	4.67	5	5	4
13	1.11	1	2	1
14	1.33	1	3	1
15	4.22	5	5	3
16	4.00	4	5	3
17	3.89	4	5	3
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0



### 受講生の傾向

一部の生徒を除き、出席率は高く、まじめに受講していた。

課題について、大半の受講生が的確な論文を書いていた。

資本市場を理解する上で基礎的な知識(用語、数学等)が乏しい学生が一部いた。

ディスカッションに積極的に参加する学生と参加しない学生がはっきりしていた。

今後、深く勉強したいという学生が多かった。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回、レジュメを配布し、資本市場に対する論点等の理解が進むようにした。

毎回、小レポートを書かせ、本日のポイントについて理解させるようにした。

実際の取引のやり方や実例の紹介を行い、机上の議論にならないように心がけた。

随時、テーマを与えてディスカッションをさせた。

会計や監査と資本市場との関係について言及するように心がけた。

基礎力に乏しい学生に配慮して、数学等をできる限り遣わないように心がけた。

証券取引所並びに日本銀行を訪問させる等、実際の資本市場に接する機会を作った。

### 今後の対応

課題を与える等により、予習を行うようなプログラムを取り入れたい。

サブプライムローン問題等、資本市場が大きく変化しているため、最新の動向を取り入れたい。

基礎的な知識(用語、数学等)に差がある学生にも、理解しやすいような工夫を行う。

科目： 判例演習

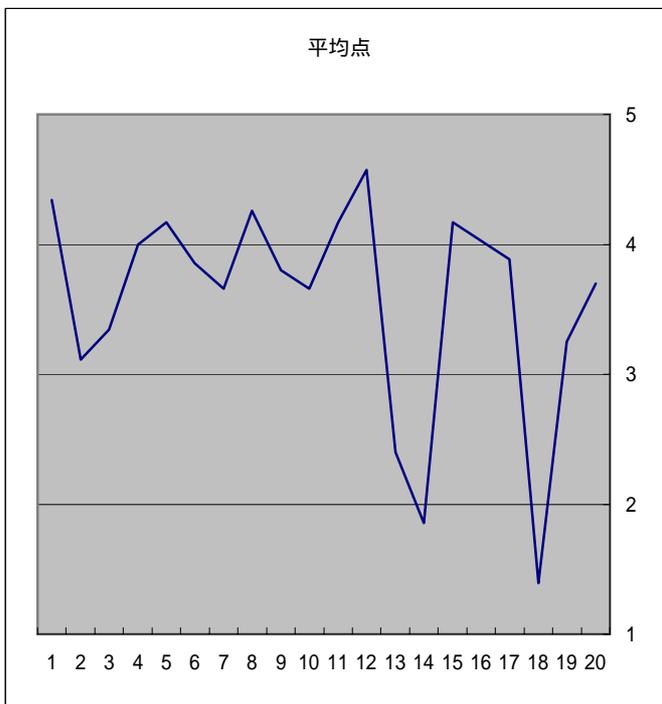
配当年次:2年次

開講時限： 火1

受講者数:41

回答者数:35

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.34	5	5	1
2	3.11	3	5	3
3	3.34	3	5	1
4	4.00	4	5	1
5	4.17	5	5	1
6	3.86	4	5	1
7	3.66	3	5	1
8	4.26	4	5	1
9	3.80	3	5	1
10	3.66	4	5	1
11	4.17	4	5	1
12	4.57	5	5	1
13	2.40	1	5	1
14	1.86	1	5	1
15	4.17	4	5	1
16	4.03	4	5	1
17	3.89	4	5	1
18	1.39	1	4	1
19	3.25	3	5	1
20	3.70	5	5	1



### 受講生の傾向

1時間目ということもあって、授業に遅刻する学生がいた。

演習科目という性質上、少人数が望ましいが、受講者が41人と多かった。

報告があたっているときには勉強するが、自分が報告でないときにはあまり勉強していないようである。

質疑応答のときには、決まった学生ばかりが発言をする傾向があった。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が多かったので、グループ発表にした。

学生同士のディスカッションが活発になるよう、報告学生主導で授業をおこなった。

常に報告学生とは異なる立場に立ち、討論が活発になるように心がけた。

### 今後の対応

演習科目であるから、質疑応答がより活発に行われるようにしたい。

会社法という科目をより発展したものであるから、会社法との連続性を生かしたい。

科目： 会計戦略論

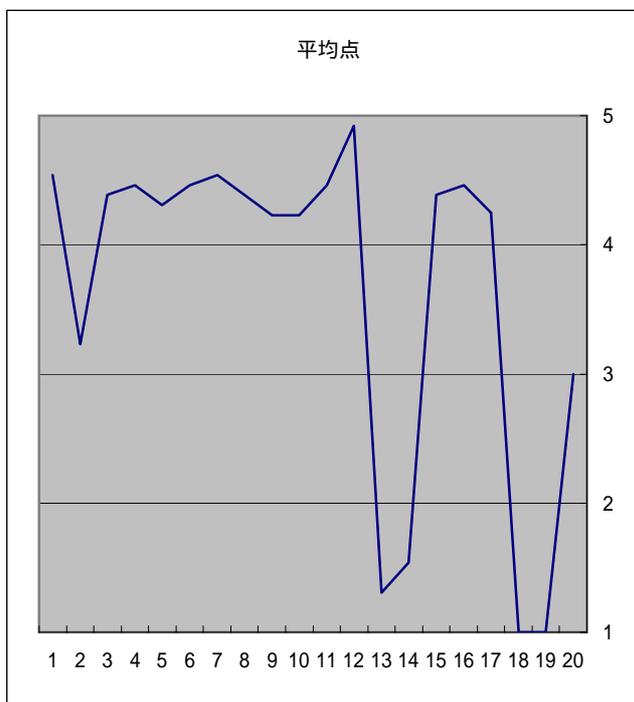
配当年次：2年次

受講者数：14

開講時限： 月4

回答者数：13

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	5	5	4
2	3.23	3	5	3
3	4.38	4	5	4
4	4.46	4	5	4
5	4.31	5	5	3
6	4.46	5	5	3
7	4.54	5	5	4
8	4.38	4	5	4
9	4.23	4	5	3
10	4.23	5	5	2
11	4.46	4	5	4
12	4.92	5	5	4
13	1.31	1	3	1
14	1.54	1	3	1
15	4.38	5	5	3
16	4.46	4	5	4
17	4.25	4	5	3
18	1.00	1	1	1
19	1.00	1	1	1
20	3.00	3	3	3



#### 受講生の傾向

非常に熱心に受講する学生がほとんどであった。

課題報告において、学生間でのディスカッションが盛んであった。

自分たちで、考察し回答を出そうとする姿勢が強かった。

予習・復習のための時間をあまりとらないようである。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生が講義に集中できるよう、レジュメ(PPのハンドアウト)は、講義終了時に配布した。  
できる限り事例を多くし、関心を持ちやすいように努めた。

#### 今後の対応

講義内容への関心度に反して、学生の予習・復習の時間が少なく、  
学生が予習・しやすいように次回講義の内容アナウンスや課題設定を講じる。

科目： 無形資産会計論

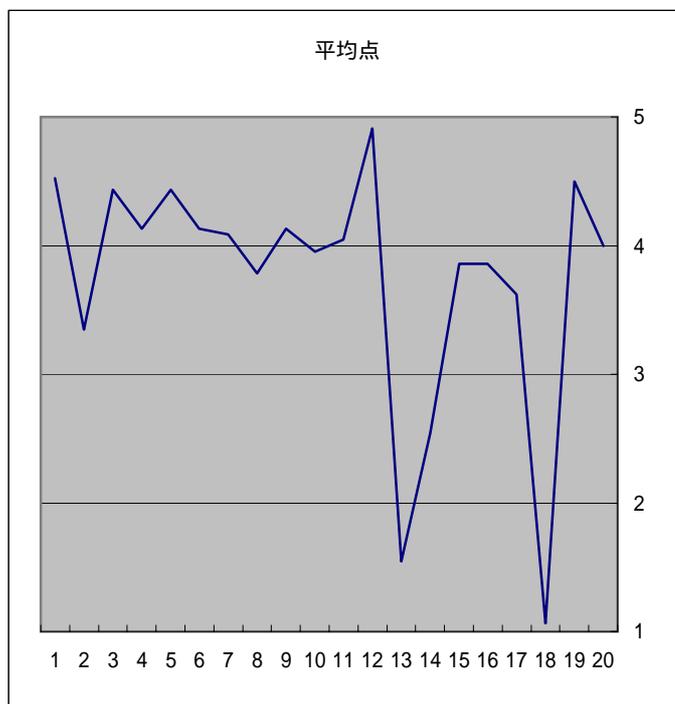
配当年次:2年次

開講時限： 金2

受講者数:25

回答者数:23

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	5	5	4
2	3.35	3	5	3
3	4.43	4	5	4
4	4.13	4	5	3
5	4.43	4	5	4
6	4.13	4	5	3
7	4.09	4	5	3
8	3.78	4	5	3
9	4.13	4	5	3
10	3.95	4	5	2
11	4.05	4	5	1
12	4.91	5	5	4
13	1.55	1	3	1
14	2.55	2	4	1
15	3.86	4	5	1
16	3.86	4	5	1
17	3.62	4	5	1
18	1.07	1	2	1
19	4.50	4・5	5	4
20	4.00	4	4	4



#### 受講生の傾向

講義時間の開始時には、ほぼ全員が着席している状態で非常に熱心だった。

教員の説明に真面目に耳を傾けたり、講義内容を熱心にメモしている学生が多く、私語はほとんどない状態だった。

定期的に行った小テストでは、文章表現力に問題はあるものの、内容的に質の高い答案が多く、講義内容を消化できている様子が伺える。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

パワーポイントを利用した講義展開を中心に実施した。

会計基準や実務指針の原文にできるだけ忠実な解説を心がけ、学生に原文を見るように促した。

暗記よりも理解させることに力点を置き、高レベルの問題に対処できるような基礎力の養成を心がけた。

はじめに現行制度の理解を促し、その後で将来的な展望を考察するというように、段階的な講義展開を行った。

#### 今後の対応

この講義科目に対して、さらに興味関心が高まるような工夫を凝らしていく。

科目： 金融商品会計論

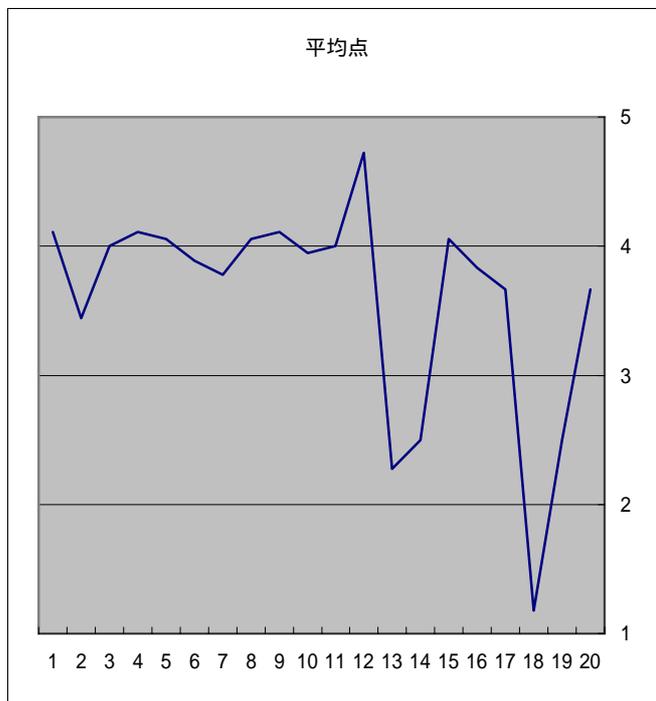
配当年次：2年次

開講時限： 月3

受講者数：44

回答者数：18

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.11	4	5	2
2	3.44	3	5	2
3	4.00	4	5	2
4	4.11	4	5	2
5	4.06	5	5	2
6	3.89	3	5	3
7	3.78	4	5	2
8	4.06	5	5	2
9	4.11	4	5	2
10	3.94	4	5	2
11	4.00	4	5	2
12	4.72	5	5	4
13	2.28	1	5	1
14	2.50	2	5	1
15	4.06	4	5	2
16	3.83	4	5	2
17	3.67	4	5	2
18	1.18	1	4	1
19	2.50	1・4	4	1
20	3.67	4	4	3



#### 受講生の傾向

- 1) 受講生が多い割には、回答者が少ない(3分の1程度)。その範囲内の傾向である。
- 2) 全質問のうち教師の評価に係る13項目(項目1から9、11、15から17)につき、金融商品会計論は財務会計系7科目平均と比較した場合の特徴として、項目2の評価数値を指摘できる。他の科目との比較において、評点3.44は「授業の進度が速すぎる」と評価されている。
- 3) 授業に対する満足度は比較的高い(4.0)一方で、「授業が速すぎる」との評価がある理由として、予習・復習の時間が少ないことが影響しているのではないかと考えられる。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 金融商品会計基準の重要部分を丁寧に説明し、実務指針の例題を解かせるようにした。
- 2) 中間段階で理解度を確認するための試験を行った。

#### 今後の対応

- 1) この講義用に編著『テキスト金融商品会計』を完成させたので、次年度から教科書として採用する。
- 2) 受講生の傾向の3)で自己分析した結果を踏まえて、授業の進度を少し遅くする、各回の講義内容を定着させるための課題を増やす、教材提示に工夫を施す。

科目： 非営利会計論

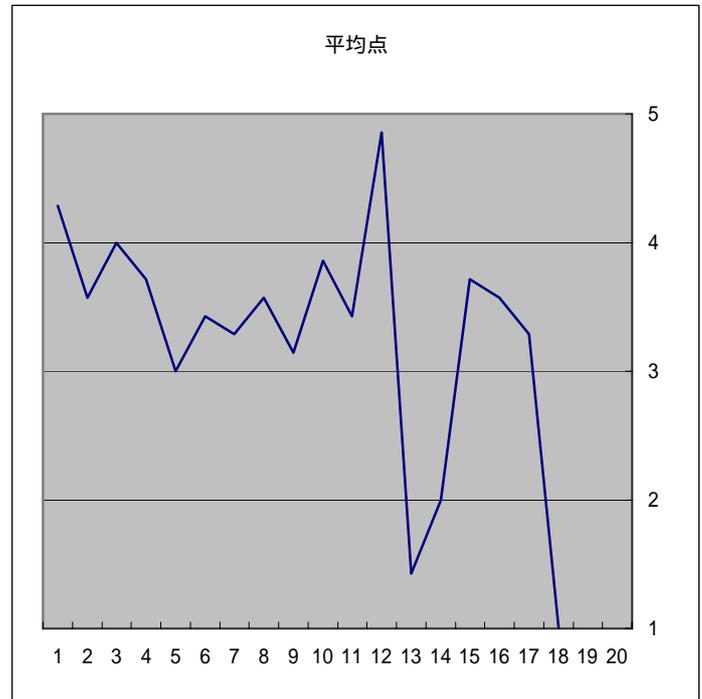
配当年次:2年次

開講時限： 木3

受講者数:8

回答者数:7

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4	5	4
2	3.57	3	5	3
3	4.00	4	5	3
4	3.71	4	5	3
5	3.00	3	4	2
6	3.43	4	4	2
7	3.29	4	4	2
8	3.57	3	5	3
9	3.14	3	4	3
10	3.86	4	5	3
11	3.43	3	4	3
12	4.86	5	5	4
13	1.43	1	2	1
14	2.00	2	3	1
15	3.71	4	5	3
16	3.57	4	4	3
17	3.29	3	4	3
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0



#### 受講生の傾向

受講生の出席状況はほぼ良かったといえるが遅れてくる者もいた。

受講態度は概ね良かったが、学生によっては退屈そうにしている者もいた。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

非営利会計全般を網羅するように努めた。

時事問題を取り上げるようにした。

非営利会計に共通する概念が理解できるようにした。

#### 今後の対応

レジュメの内容をさらに充実させる工夫を行う。

最新の状況(行政改革、会計基準の改正等)を取り入れる。

科目： 保証業務論

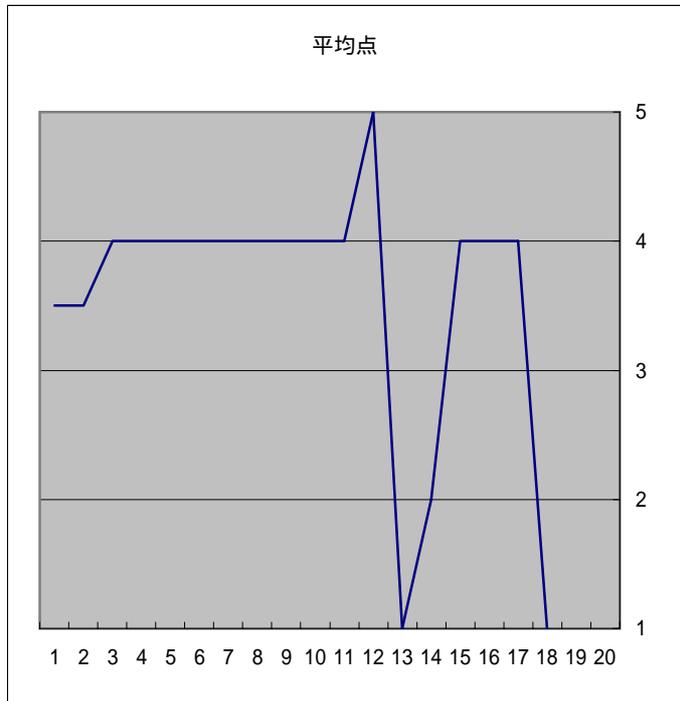
配当年次:2年次

開講時限： 水1

受講者数:15

回答者数:2

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	3.50	3・4	4	3
2	3.50	3・4	4	3
3	4.00	4	4	4
4	4.00	4	4	4
5	4.00	4	4	4
6	4.00	4	4	4
7	4.00	4	4	4
8	4.00	4	4	4
9	4.00	4	4	4
10	4.00	4	4	4
11	4.00	4	4	4
12	5.00	5	5	5
13	1.00	1	1	1
14	2.00	1・3	3	1
15	4.00	4	4	4
16	4.00	4	4	4
17	4.00	4	4	4
18	1.00	1	1	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0



### 受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」と発展科目の「監査実施論」「監査報告論」を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっており、退学した2名を除き、13名中1名の出席率が85%であった以外は、残り12名の出席率はほぼ100%であった。

しかしながら、授業時間の切迫さから、アンケート用紙の回収を教室において行なわなかったため、回収率が非常に悪く、有意な集計結果とはなっていない。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務に関する提案書」を作成させ、それをパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせて当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。

### 今後の対応

今年度の講義スタイルであれば、前半における保証業務の枠組みや内容に関する理解度が完全になされていない受講生の場合、後半における保証業務の提案書の精緻さや説得力に反映されない。従って、前半における座学による講義スタイルの段階で、一定の教育効果を確認するための小テストないしは質疑応答を導入する必要があるかもしれない。

また答案練習会との連動を計る必要がある。

科目： システム監査論

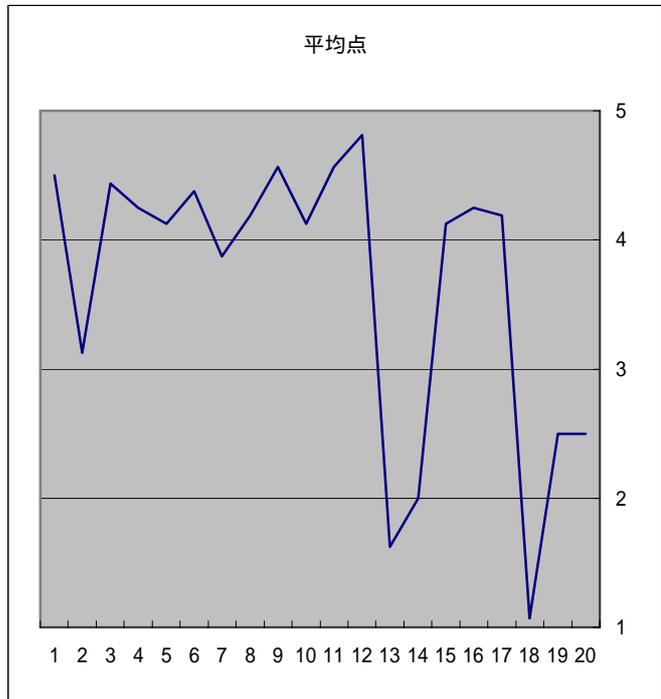
配当年次：2年次

開講時限： 木1

受講者数：27

回答者数：16

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4	5	4
2	3.13	3	4	3
3	4.44	4	5	4
4	4.25	4	5	2
5	4.13	5	5	2
6	4.38	4	5	3
7	3.88	4	5	2
8	4.19	4	5	3
9	4.56	5	5	3
10	4.13	4	5	3
11	4.56	5	5	4
12	4.81	5	5	4
13	1.63	1	3	1
14	2.00	2	3	1
15	4.13	4	5	3
16	4.25	4	5	3
17	4.19	4	5	3
18	1.07	1	2	1
19	2.50	1・4	4	1
20	2.50	1・4	4	1



#### 受講生の傾向

一部の学生を除き、出席率は高く、まじめに受講していた。

課題について、大半の受講生が的確な論文を書いていた

ディスカッションに積極的に参加する学生と参加しない学生がはっきりしていた。

今後、深く勉強したいという学生が多いた。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回、レジュメを配布し、資本市場に対する論点等の理解が進むようにした。

毎回、小レポートを書かせ、本日のポイントについて理解させるようにした。

随時、テーマを与えてディスカッションをさせた。

マニュアルベースの監査との違いについて言及するように心がけた。

#### 今後の対応

課題を与える等により、予習を行うようなプログラムを取り入れたい。

より、具体的な事例に即した内容としたい。

公認会計士試験に出題される可能性のあるテーマについて、論文等を書かせるようにしたい。

科目： 公開戦略論

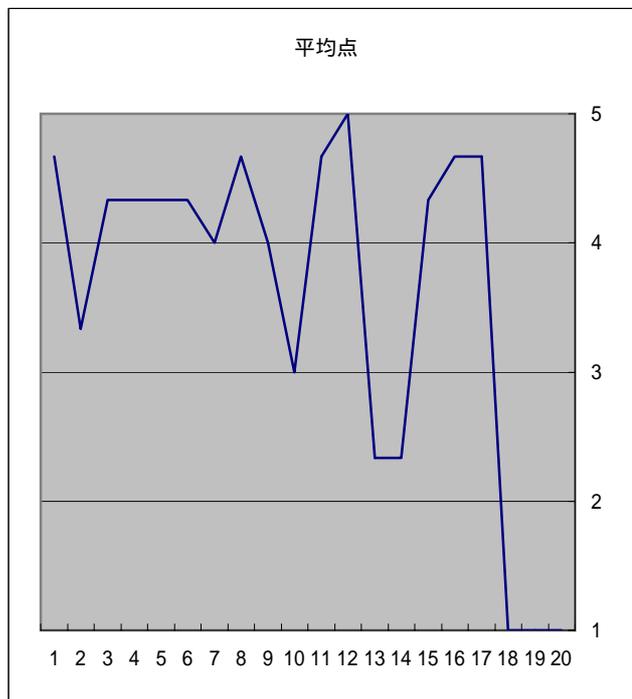
配当年次：2年次

開講時限： 水3

受講者数：23

回答者数：3

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5	5	4
2	3.33	3	4	3
3	4.33	4	5	4
4	4.33	4	5	4
5	4.33	4	5	4
6	4.33	4	5	4
7	4.00	3・4・5	5	3
8	4.67	5	5	4
9	4.00	3・4・5	5	3
10	3.00	4	4	1
11	4.67	5	5	4
12	5.00	5	5	5
13	2.33	3	3	1
14	2.33	3	3	1
15	4.33	4	5	4
16	4.67	5	5	4
17	4.67	5	5	4
18	1.00	1	1	1
19	1.00	1	1	1
20	1.00	1	1	1



#### 受講生の傾向

- 1) 出席率は高かった(出席率を評価に取り入れたことも一因)。
- 2) 1 - 2名を除いて、講義には集中していた。
- 3) 課題については、大半の受講生がかなり整理したレポートを提出していた。
- 4) 質問も適宜出されていた。
- 5) 公開制度の重要なポイントは理解できたという受講生が多かった(上記の回答者数は低いですが、課題と合わせて意見を聞いたがほぼ理解できたとしていた)。

#### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 日本の公開制度の基本的な流れ、実態を正確に理解させることに留意した。
- 2) 重要な論点はケースを通じた課題により、受講生に自分で考えさせるようにした。
- 3) 東証の公開制度改革など現在の公開市場の課題についても多く取り上げた。
- 4) MBOなど最近の話題も興味をわかせる観点から取り上げた。

#### 今後の対応

- 1) 課題を通じて予習を行うようなプログラム(今期は一部)にしていくことで、参加意識をより高める。
- 2) 制度自体がこの数ヶ月でもかなり変わっているため、具体的な内容の見直しが必要である。

科目： 企業経済学

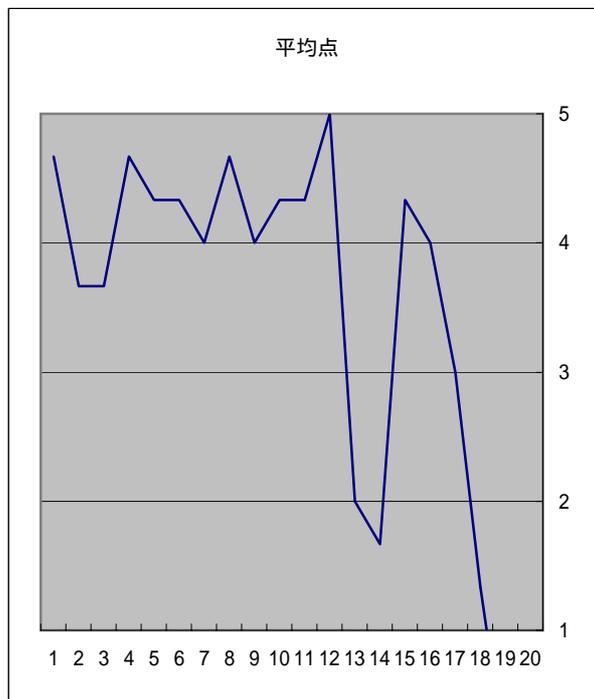
配当年次:2年次

受講者数:4

開講時限: 水3

回答者数:3

質問	平均点	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5	5	4
2	3.67	3	5	3
3	3.67	4	4	3
4	4.67	5	5	4
5	4.33	4	5	4
6	4.33	4	5	4
7	4.00	3・4・5	5	3
8	4.67	5	5	4
9	4.00	3・4・5	5	3
10	4.33	4	5	4
11	4.33	4	5	4
12	5.00	5	5	5
13	2.00	2	2	2
14	1.67	2	2	1
15	4.33	4	5	4
16	4.00	4	4	4
17	3.00	2・3・4	4	2
18	1.33	1	2	1
19	0.00	0	0	0
20	0.00	0	0	0



### 受講生の傾向

受講生は熱心でほとんど無断欠席もなかった。企業経済学は、経済学からの企業経営のアプローチであるので、経営学に関心のある受講生も出席していた。ただ、経済学であるので、分析に必要な「経済数学」の知識が必要であるが、この経済数学の基礎知識が不足している受講生も居たので、少し基礎数学の講義も行った。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

企業経済学は、経済学における「ミクロ経済学」の応用分野であるので、受講生はミクロ経済学の基礎学力が備わっているものとして、毎回レジュメを準備した受講生の発表から開始して、それを教員が解説する講義形式をとった。発表内容には、やや優劣の差はあったものの、発表者は概してよくまとまった発表を行った。

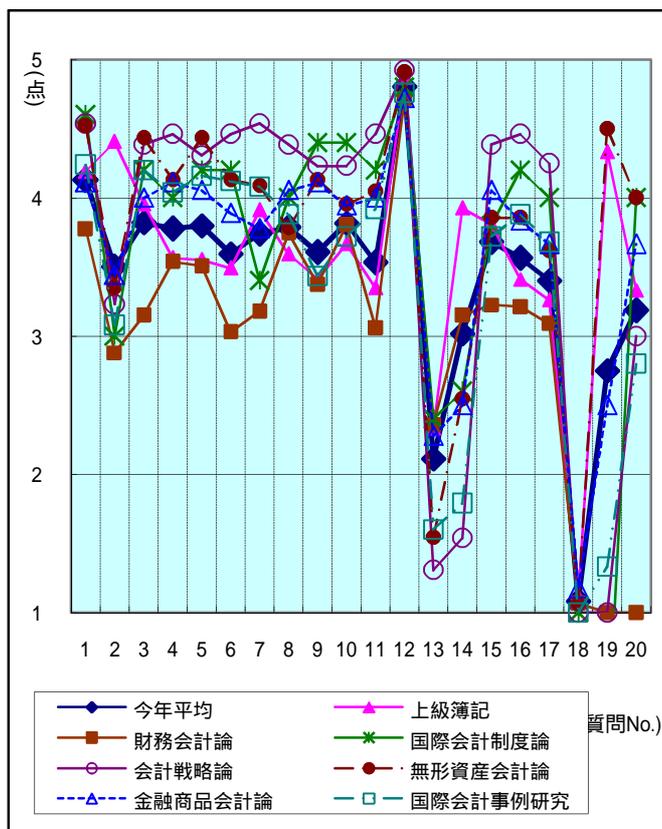
### 今後の対応

本講義は、ミクロ経済学の「生産の理論」の一部であるので、企業経営に対する経済学的アプローチと経営学からのアプローチの融合を、受講生が理解しやすいように講義していく計画である。但し、経済数学の基礎知識も受講生は事前に習得しておくように指導することが必要であると考えている。

## 系 財務会計系

受講者数:289 回答者数:222

質問	今年平均	上級簿記	財務会計論	国際会計制度論	会計戦略論	無形資産会計論	金融商品会計論	国際会計事例研究
1	4.13	4.19	3.78	4.60	4.54	4.52	4.11	4.24
2	3.50	4.41	2.88	3.00	3.23	3.35	3.44	3.08
3	3.82	3.96	3.15	4.20	4.38	4.43	4.00	4.20
4	3.78	3.57	3.54	4.00	4.46	4.13	4.11	4.04
5	3.80	3.55	3.51	4.20	4.31	4.43	4.06	4.16
6	3.60	3.49	3.03	4.20	4.46	4.13	3.89	4.12
7	3.74	3.91	3.18	3.40	4.54	4.09	3.78	4.08
8	3.79	3.59	3.75	4.00	4.38	3.78	4.06	3.88
9	3.61	3.41	3.37	4.40	4.23	4.13	4.11	3.43
10	3.82	3.67	3.81	4.40	4.23	3.95	3.94	3.72
11	3.53	3.35	3.06	4.20	4.46	4.05	4.00	3.92
12	4.80	4.87	4.72	4.80	4.92	4.91	4.72	4.76
13	2.11	2.33	2.36	2.40	1.31	1.55	2.28	1.60
14	3.02	3.93	3.15	2.60	1.54	2.55	2.50	1.79
15	3.68	3.81	3.23	3.80	4.38	3.86	4.06	3.72
16	3.56	3.41	3.21	4.20	4.46	3.86	3.83	3.88
17	3.40	3.26	3.09	4.00	4.25	3.62	3.67	3.68
18	1.08	1.11	1.07	1.00	1.00	1.07	1.18	1.00
19	2.75	4.33	1.00	0.00	1.00	4.50	2.50	1.33
20	3.19	3.33	1.00	4.00	3.00	4.00	3.67	2.80
回答者数	222	69	69	5	13	23	18	25



### 受講生の傾向

- 1) 受講生の教師に対する評価の特徴は、財務会計論、上級簿記、会計戦略論によく表れている。全質問のうち教師の評価に係る13項目(項目1から9、11、15から17)につき、財務会計論が項目2を除く12項目すべてにつき最低の評価を受け、上級簿記が9項目につき低評価となっている。項目2は評点3の評価が高い。上級簿記は進度が速すぎ、受講生の不満の原因となっているかもしれない。受講生が財務会計系の主要2科目に対してここまで厳しい評価を下した事実は重く受け止める必要がある。一方、受講生は会計戦略論に対して高い評価を与えている。
- 2) 受講生自身の評価の特徴は、予習・復習にかかる時間の長さによく表れている。財務会計論と上級簿記については予習・復習に多くの時間をかけており、会計戦略論については予習・復習に時間をかけていない。教師に対する評価と受講生の予習・復習の時間が反比例している。
- 3) その他科目では、国際会計制度論と無形資産会計で2項目につき高い評価が与えられ、金融商品会計論で1項目に低い評価(進度が速すぎる)が与えられている。他の科目は平均値からの乖離が小さい。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

財務会計論では昨年に比べ基礎事項を増やす工夫をした。しかし、それが評価に反映されていない点に問題が残る。上級簿記では理解力を高めるための複数の改善策を講じた。しかし、それが評価に反映されていない点に問題が残る。一方、会計戦略論ではレジュメを講義終了後に配布し、事例を盛り込む工夫をした。これが評価に結び付いている。

### 今後の対応

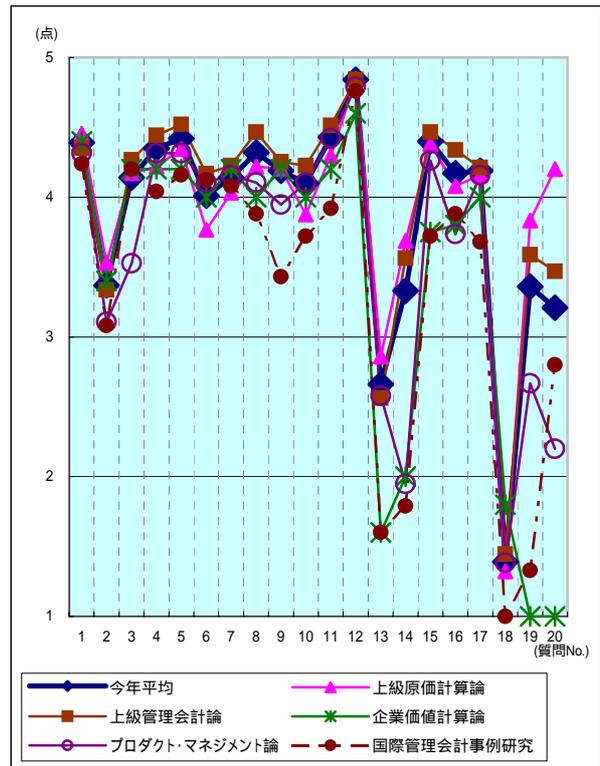
財務会計論ではレジュメ配布のタイミングをはかり、授業の進度を早め、基礎的事項を充実させるとしている。これらの対応は評価の低かった項目に対する対応である。上級簿記では時間配分の工夫や演習時間の確保に努めるとしている。会計戦略論では予習時間の増加のために課題を与えるとしている。

系：管理会計系

受講者数：205

回答者数：172

質問	今年平均	上級原価計算論	上級管理会計論	企業価値計算論	プロダクト・マネジメント論	国際管理会計事例研究
1	4.39	4.45	4.35	4.40	4.32	4.24
2	3.37	3.53	3.34	3.40	3.11	3.08
3	4.14	4.17	4.27	4.20	3.53	4.20
4	4.35	4.22	4.44	4.20	4.32	4.04
5	4.42	4.34	4.52	4.20	4.32	4.16
6	4.01	3.77	4.17	4.00	4.11	4.12
7	4.14	4.03	4.23	4.20	4.16	4.08
8	4.32	4.22	4.46	4.00	4.11	3.88
9	4.19	4.20	4.25	4.20	3.95	3.43
10	4.10	3.88	4.23	4.00	4.11	3.72
11	4.43	4.30	4.51	4.20	4.42	3.92
12	4.84	4.84	4.84	4.60	4.79	4.76
13	2.66	2.86	2.56	1.60	2.58	1.60
14	3.33	3.69	3.56	2.00	1.95	1.79
15	4.40	4.38	4.46	3.75	4.26	3.72
16	4.17	4.08	4.34	3.80	3.74	3.88
17	4.19	4.16	4.21	4.00	4.16	3.68
18	1.39	1.32	1.45	1.80	1.38	1.00
19	3.36	3.83	3.59	1.00	2.67	1.33
20	3.21	4.20	3.47	1.00	2.20	2.80
回答者数	172	67	74	5	19	7



**受講生の傾向**

熱心な受講生が多いと思われる。

ただし、計算能力や学習意欲の格差は昨年度と比較して拡大傾向にある。

予習・復習の時間が昨年と同様に全体的に少ないのもっと増やすことが必要と考えられる。とくに下位の学生には急務である。

また、理論科目については、上位者や下位者にかかわらず、基本的な概念が十分理解できていない傾向にある。

**今回の講義で工夫したこと・留意したこと**

去年度の成果を踏まえて検討したと考えられる。

- ・基本的な説明に重点を置いて説明した点。
  - ・特に計算科目については、進む速度を緩め、補講によって対応した点。
- ただし、国際管理会計事例研究のデータのみが多少異なる傾向にある。
- ・理由：英米分権を利用した点。

**今後の対応**

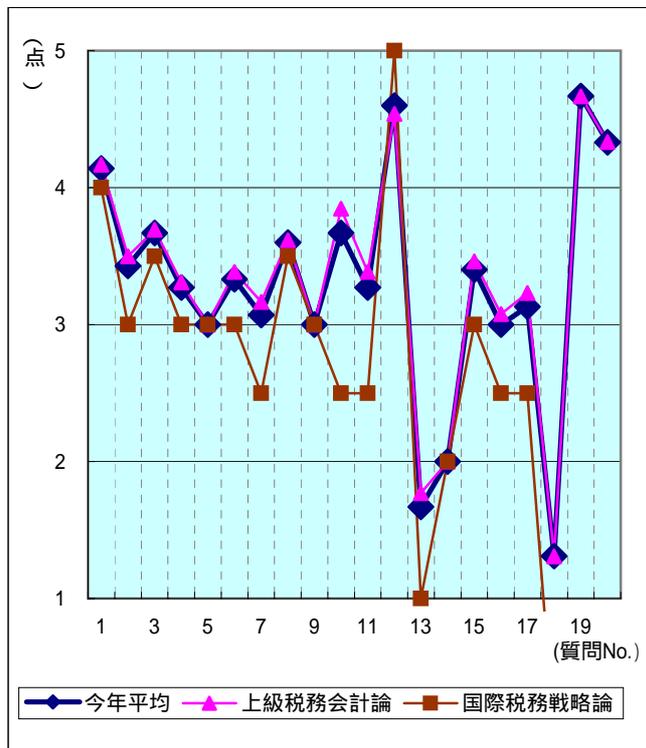
科目特性の観点から単純に比較することは出来ないが、経営と会計の関連の理解を促進するべく、科目毎の情報共有が必要であると考えられる。

- ・とりわけ、理論科目においてどのような学習がなされているのかが見えにくい。
  - ・また、計算科目の知識が理論科目に反映されているのかが見えにくい。
- 答案練習会との関係性を高める必要がある。
- ・答案練習会の整備と実行の必要性
  - ・なぜ答案練習会との関連性が低いのかの原因調査の必要性

系： 税務会計系

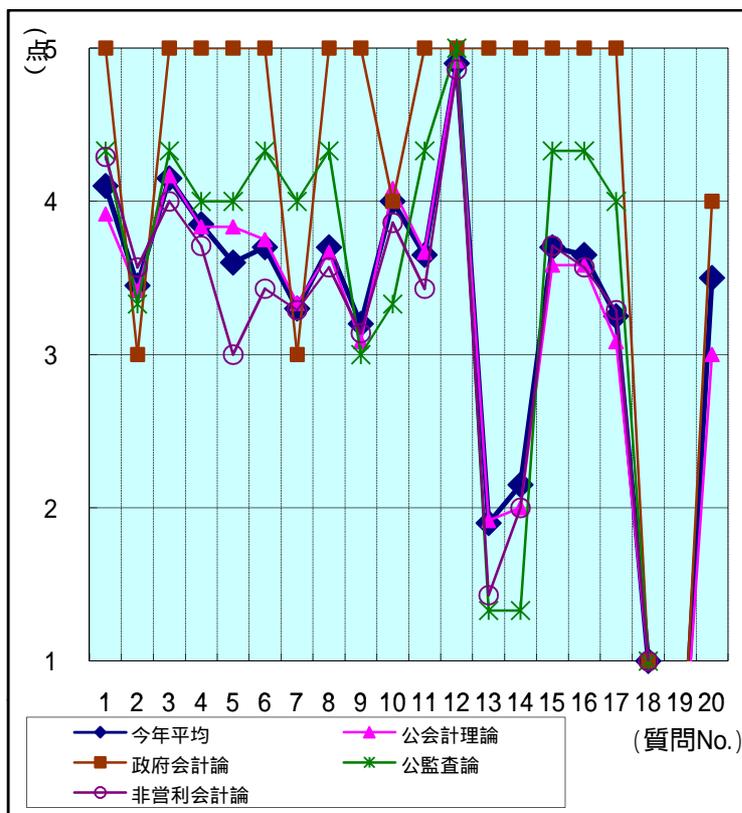
受講者数:34 回答者数:15

質問	今年平均	上級税務会計論	国際税務戦略論
1	4.14	4.17	4.00
2	3.43	3.50	3.00
3	3.67	3.69	3.50
4	3.27	3.31	3.00
5	3.00	3.00	3.00
6	3.33	3.38	3.00
7	3.07	3.17	2.50
8	3.60	3.62	3.50
9	3.00	3.00	3.00
10	3.67	3.85	2.50
11	3.27	3.38	2.50
12	4.60	4.54	5.00
13	1.67	1.77	1.00
14	2.00	2.00	2.00
15	3.40	3.46	3.00
16	3.00	3.08	2.50
17	3.13	3.23	2.50
18	1.31	1.31	0.00
19	4.67	4.67	0.00
20	4.33	4.33	0.00
回答者数	15	13	2



系： 公会計系  
 受講者数:28 回答者数:23

質問	今年平均	公会計理論	政府会計論	公監査論	非営利会計論
1	4.10	3.92	5.00	4.33	4.29
2	3.45	3.42	3.00	3.33	3.57
3	4.15	4.17	5.00	4.33	4.00
4	3.85	3.83	5.00	4.00	3.71
5	3.60	3.83	5.00	4.00	3.00
6	3.70	3.75	5.00	4.33	3.43
7	3.30	3.33	3.00	4.00	3.29
8	3.70	3.67	5.00	4.33	3.57
9	3.20	3.08	5.00	3.00	3.14
10	4.00	4.08	4.00	3.33	3.86
11	3.65	3.67	5.00	4.33	3.43
12	4.90	4.92	5.00	5.00	4.86
13	1.90	1.92	5.00	1.33	1.43
14	2.15	2.00	5.00	1.33	2.00
15	3.70	3.58	5.00	4.33	3.71
16	3.65	3.58	5.00	4.33	3.57
17	3.25	3.08	5.00	4.00	3.29
18	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
20	3.50	3.00	4.00	0.00	0.00
回答者数	23	12	1	3	7



### 受講生の傾向

- 1) 公会計系は受講者が少ない系列である。政府会計論と公監査論は回答数が少ないことから十分な判定は難しい。その限界を踏まえた上で、少数回答者の意見としては、政府会計論も公監査論もともに高い評価が下されている。
- 2) 相対的に多数の回答のあった、公会計理論と非営利会計論に対する受講者の評価は類似している。ただし、この2科目間の比較では、非営利会計論に対する評価が低い。
- 3) 授業の進度は政府会計論が適切だとの評価を受けているのに対して、残りの3科目はともに速すぎるとの評価を受けている。
- 4) 政府会計論は教材提示装置等を使用していないので意見は留保されている。公監査論については宿題等に関して意見が保留されている。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- 1) 公会計理論と非営利会計論はともに時事問題を取り上げること、その領域の全般に関して網羅的に捉えることに努めることに注力した。しかしながら学生の理解度や意欲の増進に結びつかなかった点に問題がある。
- 2) 政府会計論では予備知識がなくとも本質理解に到達するように自ら考える課題を与え、学生の努力を促す努力をした。

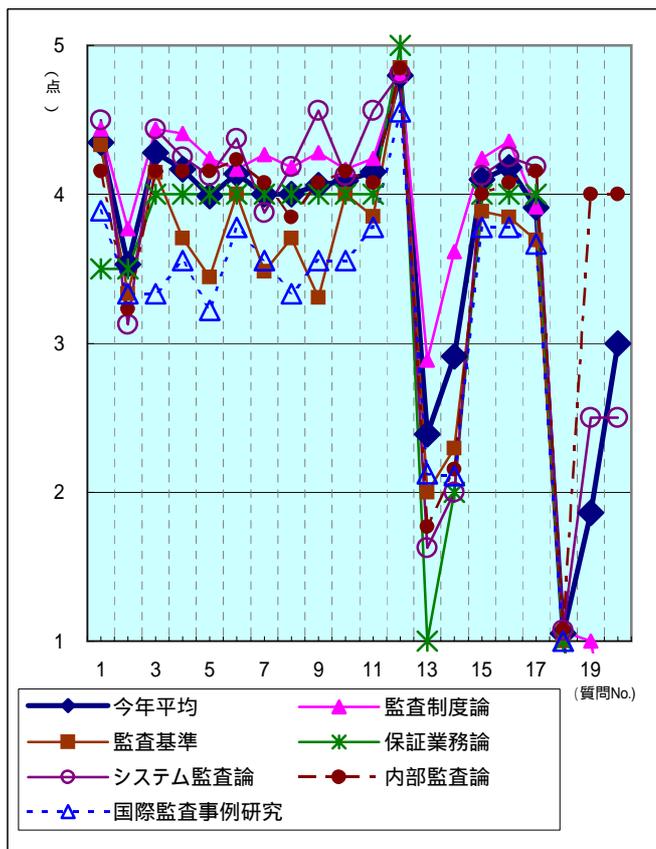
### 今後の対応

- 1) 公会計理論と非営利会計論は時事性と網羅性をさらに追及するとしている。しかし、そのことが理解度と結びついていない点をどうするかについての対応が不明確であるので、改善すべき点が残っている。
- 2) 政府会計論の講義法は支持されていたようであるが、自治体会計論との重複を避け関心を持たせるために一つの科目に統合する措置を講ずる。

系：監査系

受講者数：239 回答者数：138

質問	今年平均	監査制度論	監査基準	保証業務論	システム監査論	内部監査論	国際監査事例研究
1	4.35	4.44	4.33	3.50	4.50	4.15	3.89
2	3.53	3.77	3.33	3.50	3.13	3.23	3.33
3	4.28	4.44	4.15	4.00	4.44	4.15	3.33
4	4.17	4.41	3.70	4.00	4.25	4.15	3.56
5	3.99	4.24	3.44	4.00	4.13	4.15	3.22
6	4.14	4.17	4.00	4.00	4.38	4.23	3.78
7	4.00	4.27	3.48	4.00	3.88	4.08	3.56
8	4.00	4.18	3.70	4.00	4.19	3.85	3.33
9	4.06	4.28	3.31	4.00	4.56	4.08	3.56
10	4.09	4.17	4.00	4.00	4.13	4.15	3.56
11	4.15	4.24	3.85	4.00	4.56	4.08	3.78
12	4.80	4.80	4.85	5.00	4.81	4.85	4.56
13	2.39	2.89	2.00	1.00	1.63	1.77	2.13
14	2.91	3.61	2.30	2.00	2.00	2.15	2.11
15	4.10	4.24	3.88	4.00	4.13	4.00	3.78
16	4.18	4.36	3.85	4.00	4.25	4.08	3.78
17	3.91	3.91	3.69	4.00	4.19	4.15	3.67
18	1.05	1.06	1.00	1.00	1.07	1.08	1.00
19	1.86	1.00	0.00	0.00	2.50	4.00	0.00
20	3.00	0.00	0.00	0.00	2.50	4.00	0.00
回答者数	138	71	27	2	16	13	9



### 受講生の傾向

受講生の出席状況(質問12)は、最も低いもので80%、高いもので100%となっており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して利用するための資料を用意・配布しており、これは2007年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。

また2つの基本科目以外の発展科目・応用科目においては、各種の「事例研究」を中心にケース・スタディやプレゼンテーションで行なわれている。

### 今後の対応

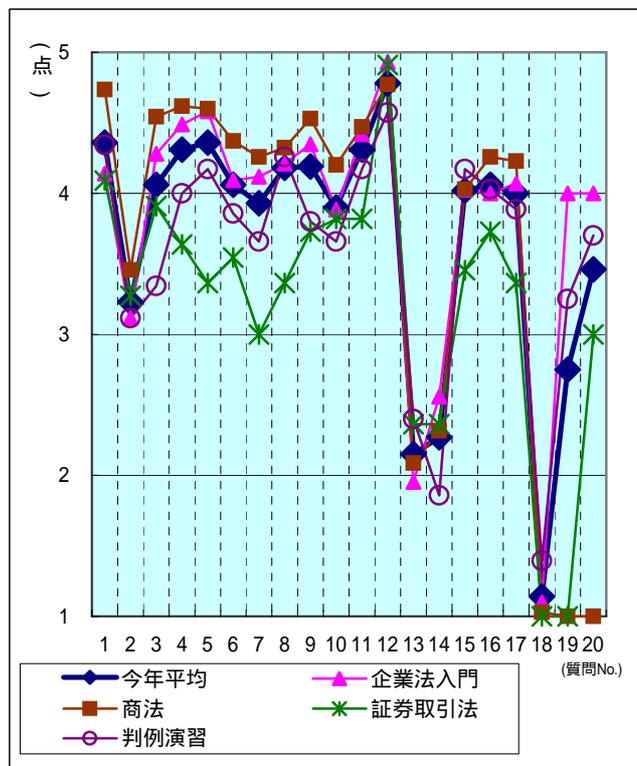
ケース・スタディやプレゼンテーションによる双方向の授業スタイルが教育効果を持つためには、受講生のモラルの向上や理解度が不可欠であるが、監査系列今年平均値をベンチマークとした場合、「監査基準」と「国際監査事例研究」、一部「保証業務」について、受講生の教育効果を高める方法が十分に講じられているとは言えない。

従って、教員側の準備(項目3)の低いことは、とうてい是認されるものではなく、教員側の意欲(項目4)や教員の話し方等(項目5)などは、次年度に向けて教員側での改善がなされなければならない。

系： 法律系

受講者数:187 回答者数:125

質問	今年平均	企業法入門	商法	証券取引法	判例演習
1	4.36	4.14	4.74	4.09	4.34
2	3.23	3.12	3.46	3.27	3.11
3	4.06	4.28	4.54	3.91	3.34
4	4.31	4.49	4.62	3.64	4.00
5	4.36	4.58	4.60	3.36	4.17
6	4.06	4.09	4.37	3.55	3.86
7	3.93	4.12	4.26	3.00	3.66
8	4.18	4.21	4.32	3.36	4.26
9	4.19	4.35	4.53	3.73	3.80
10	3.90	3.88	4.20	3.82	3.66
11	4.31	4.42	4.47	3.82	4.17
12	4.78	4.93	4.77	4.91	4.57
13	2.15	1.95	2.09	2.36	2.40
14	2.27	2.56	2.31	2.36	1.86
15	4.02	4.02	4.03	3.45	4.17
16	4.06	4.00	4.26	3.73	4.03
17	4.00	4.07	4.23	3.36	3.89
18	1.14	1.10	1.03	1.00	1.39
19	2.75	4.00	1.00	1.00	3.25
20	3.46	4.00	1.00	3.00	3.70
回答者数	125	44	35	11	35



### 受講生の傾向

学生はまじめに受講しているが、1限目の授業は遅刻する学生が見られた(商法と判例演習)。

法律科目になじみがないのか苦手になっている学生が多くみられた。

演習科目では、ディスカッションが中心になるが、特定の学生だけでディスカッションになることが多かった。

講義科目において、法律の答案を作成する能力につき、学生の間で大きな差がある。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全体的に法学に関する学習方法を教授した。

講義科目においては、条文の読み方や法的な思考方法、判例演習では、判例の調べ方から読み方について教示した。

授業についてくることが困難な学生に対して補習授業を行った。

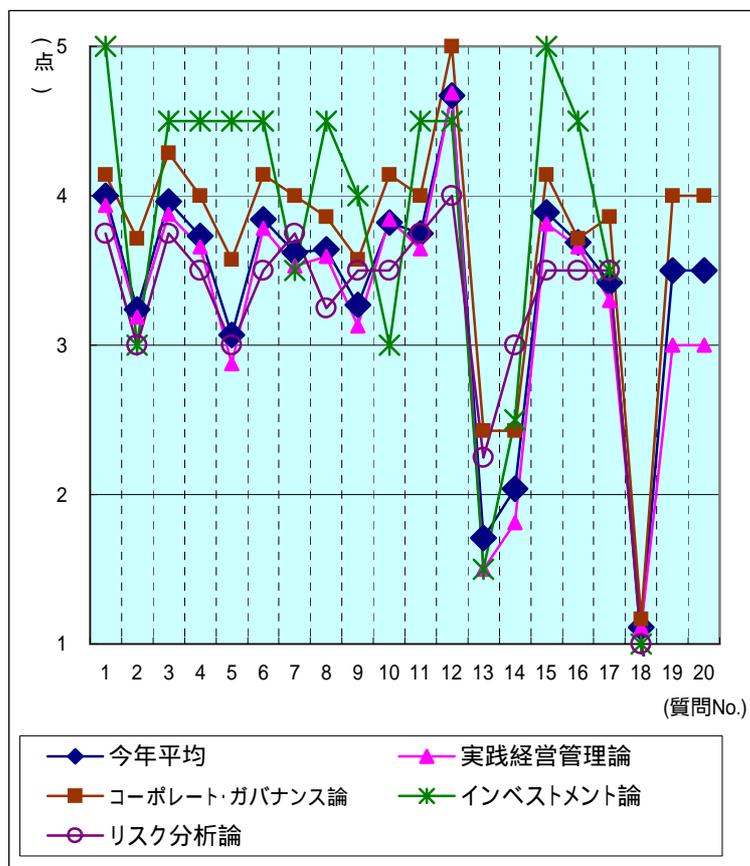
### 今後の対応

それぞれの科目を単独で理解するのではなく、講義科目および演習科目を含めて連携した授業を行えるようにしたい。

系： 経営系  
 受講者数：103

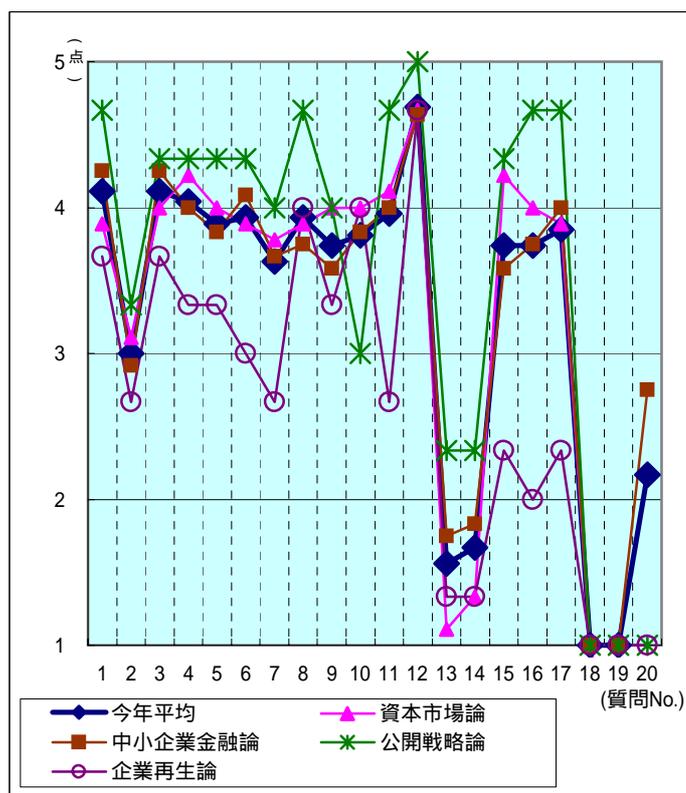
回答者数：45

質問	今年平均	実践経営管理論	コーポレート・ガバナンス論	インベストメント論	リスク分析論
1	4.00	3.94	4.14	5.00	3.75
2	3.24	3.19	3.71	3.00	3.00
3	3.96	3.88	4.29	4.50	3.75
4	3.73	3.66	4.00	4.50	3.50
5	3.07	2.88	3.57	4.50	3.00
6	3.84	3.78	4.14	4.50	3.50
7	3.62	3.53	4.00	3.50	3.75
8	3.64	3.59	3.86	4.50	3.25
9	3.27	3.13	3.57	4.00	3.50
10	3.82	3.84	4.14	3.00	3.50
11	3.75	3.65	4.00	4.50	3.75
12	4.67	4.69	5.00	4.50	4.00
13	1.71	1.50	2.43	1.50	2.25
14	2.04	1.81	2.43	2.50	3.00
15	3.89	3.81	4.14	5.00	3.50
16	3.69	3.66	3.71	4.50	3.50
17	3.42	3.30	3.86	3.50	3.50
18	1.11	1.11	1.17	1.00	1.00
19	3.50	3.00	4.00	0.00	0.00
20	3.50	3.00	4.00	0.00	0.00
回答者数	45	32	7	2	4



系：ファイナンス系  
 受講者数：72 回答者数：27

質問	今年平均	資本市場論	中小企業金融論	公開戦略論	企業再生論
1	4.11	3.89	4.25	4.67	3.67
2	3.00	3.11	2.92	3.33	2.67
3	4.11	4.00	4.25	4.33	3.67
4	4.04	4.22	4.00	4.33	3.33
5	3.89	4.00	3.83	4.33	3.33
6	3.93	3.89	4.08	4.33	3.00
7	3.63	3.78	3.67	4.00	2.67
8	3.93	3.89	3.75	4.67	4.00
9	3.74	4.00	3.58	4.00	3.33
10	3.81	4.00	3.83	3.00	4.00
11	3.96	4.11	4.00	4.67	2.67
12	4.69	4.67	4.64	5.00	4.67
13	1.56	1.11	1.75	2.33	1.33
14	1.67	1.33	1.83	2.33	1.33
15	3.74	4.22	3.58	4.33	2.33
16	3.74	4.00	3.75	4.67	2.00
17	3.85	3.89	4.00	4.67	2.33
18	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
19	1.00	0.00	1.00	1.00	1.00
20	2.17	0.00	2.75	1.00	1.00
回答者数	27	9	12	3	3



### 受講生の傾向

出席率は高かった。  
 一部を除き、授業に集中していた。  
 公認会計士の試験科目や業務に近い分野では、議論も活発であった。  
 授業に積極的に参加する学生と授業を聞くだけの学生がはっきりしていた。  
 ファイナンス分野を学習するのに必要な基礎的な学力(特に数学等)に差があった。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

実例、特に最近話題になっていること等を通して、具体的な制度や考え方等を理解させるようにした。  
 監査や会計との関係について言及するように心がけた。  
 毎回、レジュメ等を配布し、小レポートを書かせる等、ポイントを理解させる工夫を行った。  
 重要な論点について、ケースを通じた課題やディスカッションを通して、自分で考えさせるようにした。

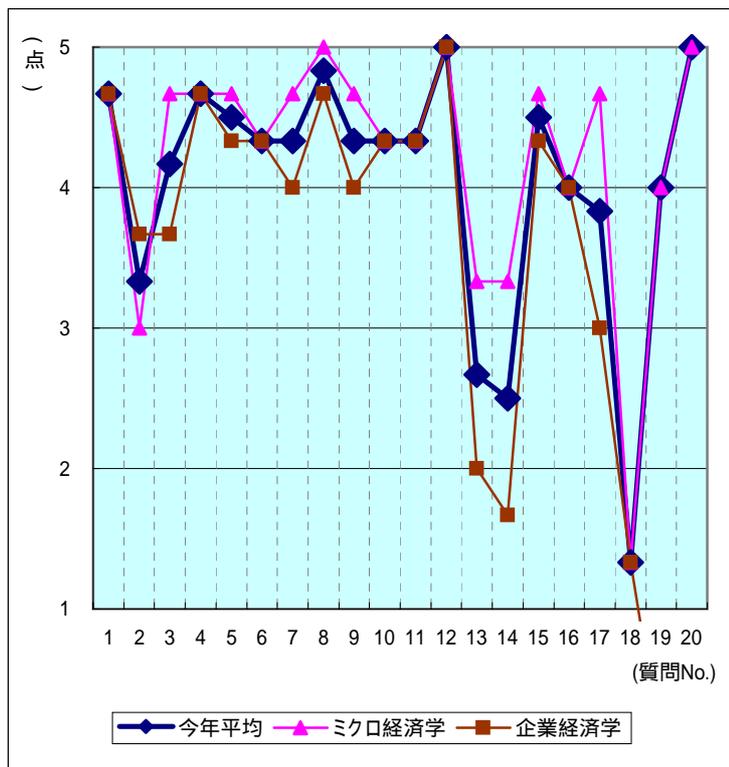
### 今後の対応

課題を与える等により、予習を行うようなプログラムを取り入れたい。  
 制度変更や、新しい問題が発生する等、ファイナンス分野の動きは早いので、それを取り入れた授業を行う。  
 数学等の基礎的な学力に劣る学生に関しても、興味を持って理解してもらえるように工夫する。

系： 経済・統計系

受講者数：8 回答者数：6

質問	今年平均	ミクロ経済学	企業経済学
1	4.67	4.67	4.67
2	3.33	3.00	3.67
3	4.17	4.67	3.67
4	4.67	4.67	4.67
5	4.50	4.67	4.33
6	4.33	4.33	4.33
7	4.33	4.67	4.00
8	4.83	5.00	4.67
9	4.33	4.67	4.00
10	4.33	4.33	4.33
11	4.33	4.33	4.33
12	5.00	5.00	5.00
13	2.67	3.33	2.00
14	2.50	3.33	1.67
15	4.50	4.67	4.33
16	4.00	4.00	4.00
17	3.83	4.67	3.00
18	1.33	1.33	1.33
19	4.00	4.00	0.00
20	5.00	5.00	0.00
回答者数	6	3	3



### 受講生の傾向

受講生は真面目である。教員の説明も真面目に聴き、熱心にノートをとる。また、発表をあてた場合でも、事前にきちんと発表用のレジュメを作成し、一生懸命発表する。ただ、経済学には必須の「数学」の基礎知識に欠ける受講生がいるので、事前に基礎的な経済数学を学習しておく必要がある。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

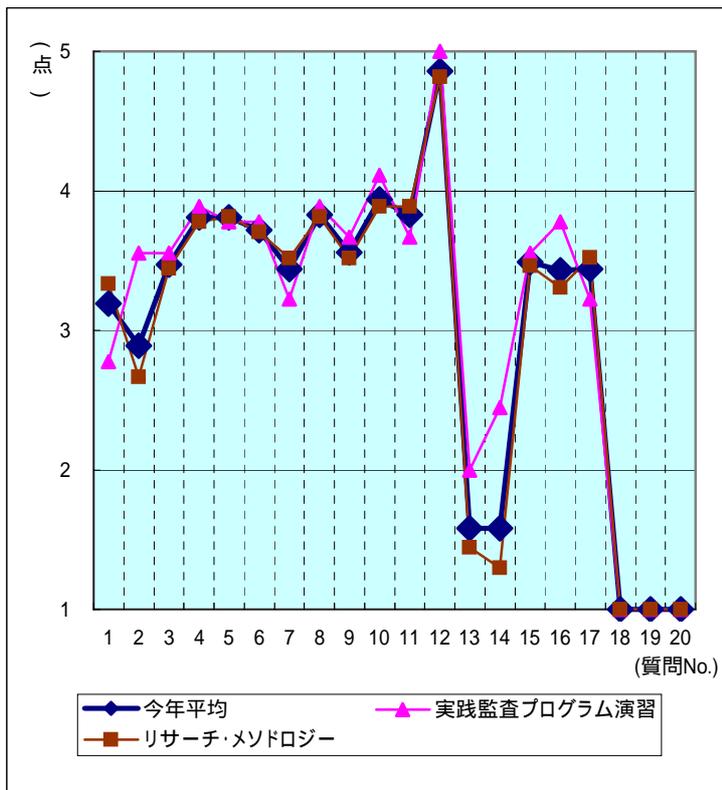
経済学は論理的であるので、講義では数式や図形をよく用いて説明する。しかし、数学が得意でない受講生もいるので、できる限り直観的に理解しやすい図を用いて説明した。また、経済学でよく用いる解析学を講義の合間に解説した。

### 今後の対応

経済学に関心を持つ受講生も結構居るので、講義の理解を助けるために事前に基礎的な数学を学習する機会を与えるように次年度以後は工夫する。

系： IT・ビジネススキル系  
 受講者数：38 回答者数：37

質問	今年平均	実践監査プログラム演習	リサーチ・メソドロジー
1	3.19	2.78	3.33
2	2.89	3.56	2.67
3	3.47	3.56	3.44
4	3.81	3.89	3.78
5	3.81	3.78	3.81
6	3.72	3.78	3.70
7	3.44	3.22	3.52
8	3.83	3.89	3.81
9	3.56	3.67	3.52
10	3.94	4.11	3.89
11	3.83	3.67	3.89
12	4.86	5.00	4.81
13	1.58	2.00	1.44
14	1.58	2.44	1.30
15	3.49	3.56	3.46
16	3.43	3.78	3.31
17	3.44	3.22	3.52
18	1.00	1.00	1.00
19	1.00	1.00	1.00
20	1.00	1.00	1.00
回答者数	37	9	28



### 受講生の傾向

出席率が非常に高かった。  
 予習・復習にあてる時間が比較的少ないようである。  
 十分に満足してない学生が少なからずいるように感じる。

### 今回の講義で工夫したこと・留意したこと

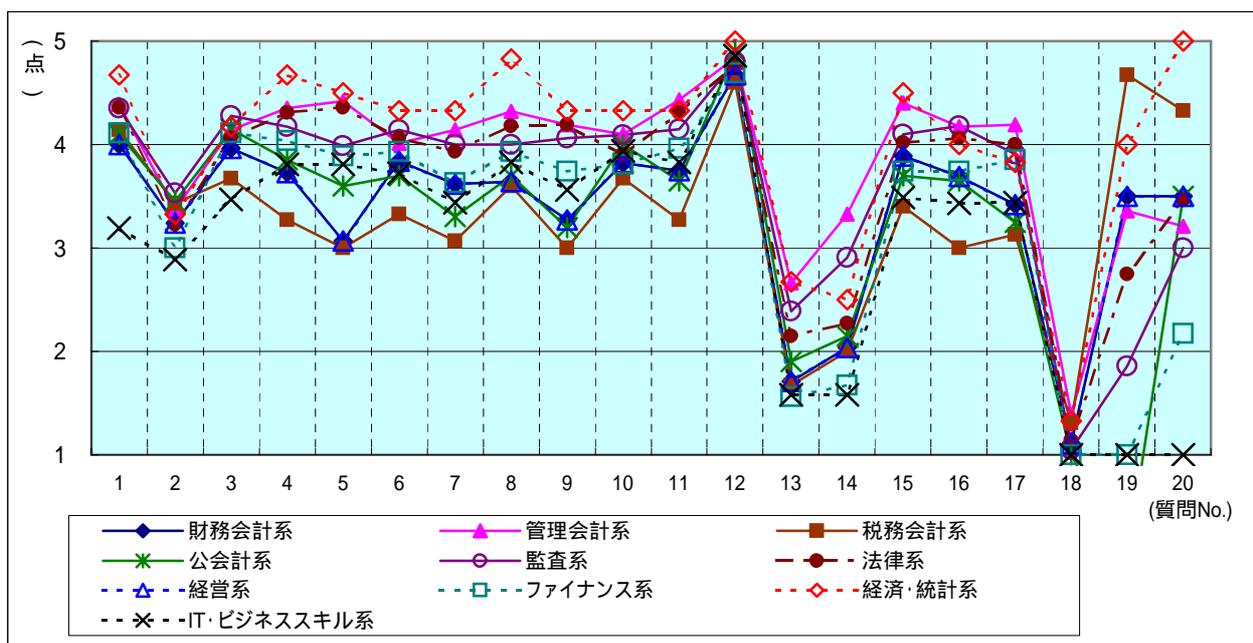
学生のITに関する知識水準を鑑み、少しゆっくりとわかりやすく講義した。

### 今後の対応

講義要項・授業計画を、実際の講義展開にあわせて作成する。  
 予習・復習に結びつきやすいように、課題設定・授業計画を構築する。

## 系別平均

質問	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT・ビジネススキル系
1	4.00	4.39	4.14	4.10	4.35	4.36	4.00	4.11	4.67	3.19
2	3.24	3.37	3.43	3.45	3.53	3.23	3.24	3.00	3.33	2.89
3	3.96	4.14	3.67	4.15	4.28	4.06	3.96	4.11	4.17	3.47
4	3.73	4.35	3.27	3.85	4.17	4.31	3.73	4.04	4.67	3.81
5	3.07	4.42	3.00	3.60	3.99	4.36	3.07	3.89	4.50	3.81
6	3.84	4.01	3.33	3.70	4.14	4.06	3.84	3.93	4.33	3.72
7	3.62	4.14	3.07	3.30	4.00	3.93	3.62	3.63	4.33	3.44
8	3.64	4.32	3.60	3.70	4.00	4.18	3.64	3.93	4.83	3.83
9	3.27	4.19	3.00	3.20	4.06	4.19	3.27	3.74	4.33	3.56
10	3.82	4.10	3.67	4.00	4.09	3.90	3.82	3.81	4.33	3.94
11	3.75	4.43	3.27	3.65	4.15	4.31	3.75	3.96	4.33	3.83
12	4.67	4.84	4.60	4.90	4.80	4.78	4.67	4.69	5.00	4.86
13	1.71	2.66	1.67	1.90	2.39	2.15	1.71	1.56	2.67	1.58
14	2.04	3.33	2.00	2.15	2.91	2.27	2.04	1.67	2.50	1.58
15	3.89	4.40	3.40	3.70	4.10	4.02	3.89	3.74	4.50	3.49
16	3.69	4.17	3.00	3.65	4.18	4.06	3.69	3.74	4.00	3.43
17	3.42	4.19	3.13	3.25	3.91	4.00	3.42	3.85	3.83	3.44
18	1.11	1.39	1.31	1.00	1.05	1.14	1.11	1.00	1.33	1.00
19	3.50	3.36	4.67	0.00	1.86	2.75	3.50	1.00	4.00	1.00
20	3.50	3.21	4.33	3.50	3.00	3.46	3.50	2.17	5.00	1.00
回答者数	222	172	15	12	138	125	45	27	6	37
受講者数	289	205	34	23	239	187	103	72	8	38



## 受講生の傾向

おしなべて、学生の出席率が高いものの、予習・復習に充てる時間が少ない。

教員の姿勢(準備や熱意・努力、質問への対応)にある程度満足しているようであるが、系によってその満足度は異なるようである。

職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったという点に対して、強く肯定的に感じていないようである。

## 今後の対応

系による相違があり、系を超えて学生の学習意欲が高まるような所作を講じる。

系ごとのFDだけでなく、系相互の情報交換等を実施する。

## **.18 年度 授業評価アンケートフォーム**

授業評価アンケート（平成 18 年度様式）

「会計大学院学生による授業評価」アンケート

- ・ 授業の評価
- ・ 授業への取組み
- ・ 答案練習会について

・ 授業の評価

- 1) 授業内容は、講義要綱、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 2) この授業の進度はどうでしたか。
  - 5 . かなり早い
  - 4 . 早い
  - 3 . ちょうどよい
  - 2 . 遅い
  - 1 . かなり遅い
  
- 3) この授業は教員によってよく準備されていましたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 4) 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 5) この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 6) 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 7) ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う

授業評価アンケート（平成 18 年度様式）

- 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 8 ) 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 9 ) 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 10 ) この授業のクラスの規模・クラス分けは適切でしたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 11 ) 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- ．授業への取組み
- 12 ) この授業への出席状況はどうでしたか。
- 5 . 90%以上
  - 4 . 70%以上
  - 3 . 50%以上
  - 2 . 30%以上
  - 1 . 30%未満
- 13 ) この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
- 5 . 2時間以上
  - 4 . 1時間30分程度
  - 3 . 1時間程度
  - 2 . 30分程度
  - 1 . 0時間
- 14 ) この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
- 5 . 2時間以上
  - 4 . 1時間30分程度
  - 3 . 1時間程度

授業評価アンケート（平成 18 年度様式）

2.30分程度

1.0時間

15) この授業に触発されてさらに深く学習したいと思われましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

16) この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

17) あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

. 答案練習会について

18) あなたはこの授業に対応した答案練習会にどれくらい参加しましたか。

5. 全部

4. 半分以上

3. 半分未満

2. 参加はしていないが、問題・解答用紙を受け取った

1. 参加したことがない

19) この授業はこの授業に対応した答案練習会に役立ちましたか。

（答案練習会に参加したことのある学生のみ回答してください）

5. 強くそう思う

4. そう思う

3. どちらともいえない

2. そう思わない

1. 全くそう思わない

20) あなたはこの授業に対応した答案練習会に参加するに当たり、十分な取り組みをしましたか。（参加していない場合は、選択肢 2 ないし 1 の何れかを選択してください）

5. 十分であった

4. やや不十分であった

3. 不十分であった

2. 現在は参加していないが、将来は参加するつもりである

1. 答案練習会には参加しない

以上

ご協力ありがとうございました。

**・ 19 年度授業評価アンケートフォーム**

授業評価アンケート（平成 19 年度様式）

「会計大学院学生による授業評価」アンケート

- ・ 授業の評価
- ・ 授業への取組み
- ・ 答案練習会について

・ 授業の評価

- 1) 授業内容は、講義要綱、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 2) この授業の進度はどうでしたか。
  - 5 . かなり早い
  - 4 . 早い
  - 3 . ちょうどよい
  - 2 . 遅い
  - 1 . かなり遅い
  
- 3) この授業は教員によってよく準備されていましたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 4) 学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 5) この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 6) 教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
  
- 7) ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
  - 5 . 強くそう思う

授業評価アンケート（平成 19 年度様式）

- 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 8 ) 教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 9 ) 宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 10 ) この授業のクラスの規模は適切でしたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- 11 ) 全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
- 5 . 強くそう思う
  - 4 . そう思う
  - 3 . どちらともいえない
  - 2 . そう思わない
  - 1 . 全くそう思わない
- ．授業への取組み
- 12 ) この授業への出席状況はどうでしたか。
- 5 . 90%以上
  - 4 . 70%以上
  - 3 . 50%以上
  - 2 . 30%以上
  - 1 . 30%未満
- 13 ) この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
- 5 . 2時間以上
  - 4 . 1時間30分程度
  - 3 . 1時間程度
  - 2 . 30分程度
  - 1 . 0時間
- 14 ) この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
- 5 . 2時間以上
  - 4 . 1時間30分程度
  - 3 . 1時間程度

授業評価アンケート（平成 19 年度様式）

2 . 3 0 分程度

1 . 0 時間

1 5 ) この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたが。

5 . 強くそう思う

4 . そう思う

3 . どちらともいえない

2 . そう思わない

1 . 全くそう思わない

1 6 ) この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。

5 . 強くそう思う

4 . そう思う

3 . どちらともいえない

2 . そう思わない

1 . 全くそう思わない

1 7 ) あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。

5 . 強くそう思う

4 . そう思う

3 . どちらともいえない

2 . そう思わない

1 . 全くそう思わない

・ 答案練習会について

1 8 ) あなたはこの授業に対応した答案練習会に参加したことがありますか。

2 . 参加したことがある

1 . 参加したことがない

以下の質問は設問 1 8 で 2 ( 参加したことがある ) と記入した場合のみ回答してください。

1 9 ) あなたはこの授業に対応した答案練習会にどのくらい参加しましたか。

5 . 全部

4 . 半分以上

3 . 半分未満

2 . 参加はしていないが、問題・解答用紙を受け取った

1 . 参加したことがない

2 0 ) この授業に対応した答案練習会はこの授業の復習等に役立ちましたか。

5 . 強くそう思う

4 . そう思う

3 . どちらともいえない

2 . そう思わない

1 . 全くそう思わない

以上

ご協力ありがとうございました。

## ・ 講演会

# 客員教授講演会のご案内

関西大学会計専門職大学院では、日本学術振興会理事長・元文部科学事務次官の小野元之客員教授をお招きし、下記のとおり講演会を開催します。

入場は無料ですが、事前申し込み制となっております。興味をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

## 記

1 日時 平成20年3月5日(水) 15:30~17:00

2 場所 関西大学千里山キャンパス 尚文館

3 講師 小野元之 客員教授

4 演題 「教育再生の夢と大学改革」

5 申込方法

参加者のお名前(複数の場合は代表者名と人数)を次の方法により3月3日(月)までにご連絡下さい。

電子メール(宛先 seminar@jm.kansai-u.ac.jp)

F A X (06-6368-0610)

はがき(宛先 564-8680 吹田市山手町3-3-35 関西大学会計専門職大学院 セミナー係)

6 参加費 無料

お送りいただいた個人情報は、講演会開催の目的外には一切利用しません。  
お申込み後に大学からの連絡はいたしません。そのまま会場へお越し下さい。  
自家用車での来学はご遠慮下さい。



尚文館

正門

お問合せ先

会計専門職大学院 電話 06-6368-1121(代)

<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

## 関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121(代表)

Fax (06)6368-0610